

藝術研究所 研究調査報告書

14

2015

大阪芸術大学藝術研究所

ご 挨拶

大阪芸術大学藝術研究所

所長 喜多 俊之

『研究成果報告』第14号をお届けいたします。

この報告書は、平成26年度の公募の中より藝術研究所運営委員会が認められた補助費による研究調査の成果をまとめたものです。

本学に於ける研究調査活動がさらに活性化することを願い、来年度以降も研究調査補助の活動を継続してまいります。総合芸術大学の特性を活かし、領域を越えた共同研究調査は大いに歓迎いたします。

また、この報告書に対する批評・感想など当研究所宛にお送りください。

藝術研究所研究調査完結研究課題一覧表

(平成26年度)

研究ディレクター	研 究 課 題	頁数
石 井 元 章 (教養課程教授)	イタリア文化会館の寄贈になる映像資料のデータベース化	4
杉 本 真 一 (建築学科准教授)	宇多津古街における景観形成の向上に関する研究	46
絹 谷 幸 二 (美術学科教授)	阿波の襖からくり研究—犬飼農村舞台・西祖谷山村舞台—	57

※各氏名の肩書きは、研究調査補助費申請書申請時の役職で掲載しています。

イタリア文化会館の寄贈になる映像資料のデータベース化

研究年度・期間：平成 26 年度

研究ディレクター：石井 元章
(教養課程教授)

共同研究者：豊原 正智 ニーリ パオロ
(芸術計画学科教授) (教養課程非常勤講師)

学外共同研究者：鈴木 国男 近藤 直樹
(共立女子大学 (京都外国語大学
文芸学部教授) イタリア語学科准教授)

近年在関西イタリア文化会館は、領事館と同じ建物に置くというイタリア政府の方針に従って、日本におけるイタリア学の発祥の地である京都から大阪に移転し、その際に行なわれた所蔵資料整理の結果、90本に及ぶVHSテープが本研究のディレクターに寄贈された。その内容は西洋美術史から演劇、映画、ドキュメンタリーと多岐に亘り、かつ現在では入手困難な内容のものもある。本研究ではまず富山県の会社に委託して現在最も普及したメディアであるDVDに当該資料を変換した。その後、共同研究者がそれぞれの専門に応じた担当分野のDVDの内容を次の通りデータベース化した。

美術史 (34本)：石井元章 (研究ディレクター：大阪芸術大学教授)

演劇 (16本)：鈴木国男 (共立女子大学文芸学部教授)

演劇 (17本)：近藤直樹 (京都外国語大学准教授)

ドキュメンタリー (5本)：パオロ・ニーリ (大阪芸術大学非常勤講師)

DVDの複写、会計、データベース入力：豊原正智 (大阪芸術大学教授)

各研究者の報告は後にこれを掲載する。

本研究の成果であるDVD資料とデータベースは大阪芸術大学図書館に寄贈し、教員・学生の研究・調査に供する。また、寄贈元のイタリア文化会館にはDVDをコピーし、データベースと共に御礼として寄贈した。

美術史：石井元章

美術史の分野に属するDVD34本は、イステイトウト・ルーチェ (研究所「光」)の企画になる『イタリア絵画選集 (Antologia della pittura italiana)』のシリーズが29本、修復現場や展覧会を主題とした3本、その他2本からなる。

共同研究者の豊原先生、鈴木先生、近藤先生、ニーリ先生、および私の5人で事前に行った

ミーティングで取り決めたように、「原題」「日本語訳タイトル」「ジャンル」「制作年」「作者」「スタッフ」「上映時間」「内容」「コメント」の9つの項目について可能な限りデータを収集した。その作業方法は以下のとおりである。

- ①すべてのDVDを視聴する
- ②DVD本体、および帯から得られる情報をもとに、上記9項目を作成する。
- ③足りない部分はLa nuova enciclopedia dell'arte Garzanti、新潮世界美術辞典などを参照して作成する。

『イタリア絵画選集』は、ジョルジョ・マスケルパを中心とした監修陣がその多くを担当しているが、監督は一つ一つのドキュメンタリーごとに異なる。これらは先行研究に基づく優れたテキストを持ち、撮影も鑑賞に耐えうるよう至近距離から行われたものが多い。これに対して、他の研究者が監修したもの、すなわち62. ジョット、70. レオナルドとその周辺、72. 偉大なるマニエラ、82. 未来派、83. ウンベルト・ボッチョーニとアントニオ・サンテリアの5本はこれらとは異なり、それぞれの担当監修者の特徴が良く現れた特色あるドキュメンタリーに仕上がっているものの、品質は一定しない。『イタリア絵画選集』のシリーズは日本でも名の知られたジョットやレオナルド、ラッファエッロのような巨匠ばかりでなく、少し知名度の落ちる(イタリアでは著名である)ベッカフーミヤロレンツォ・ロット、ジュリオ・ロマーノ、フェデリコ・パロッチ、ガイド・レーニ、グエルチーノ(近年チェント市を襲った地震により開館不能に陥った同市立美術館収蔵の作品を中心とした展覧会が、今春、東京上野の国立西洋美術館で行われた)、ジュゼッペ・マリア・クレスピ、カナレットなどのモノグラフを扱う点で興味深い。

しかしながら、これらのDVD共通の難点は、映像の質である。1980年台から1990年代にかけて撮影されたこれらのドキュメンタリーの映像は、ハイビジョンやブルーレイなどの高品質な映像に慣れた我々の眼には残念ながら満足のいくものとは言えない。また、『イタリア絵画選集』は、日本語でDVDの出されていない作家に関して一般の学生の教育にも資するが、そのためには字幕を入れる必要がある。

『イタリア絵画選集』以外のドキュメンタリーのうち「花の聖母大聖堂大円蓋」は1980年から1995年まで行われた大修復の際に足場から撮影された貴重な記録である。最後には修復前後のフレスコ画の比較が行われており、非常に興味をそそられる。マンフレディとモランディの展覧会を扱った2本は、展覧会場を撮影しただけのドキュメンタリーである。

「都市ローマの姿を変えたティチーノ出身の建築家達」は何世紀にも互って優れた彫刻家が輩出したことで名高いスイスのティチーノ地方を切り口とした興味深い作品である。これに対し、「不思議の国、美術と都市、イタリア美術の至宝10」は、貴石博物館やスキファノイア宮殿、ノルマン大聖堂など珍しい文化財を選んでいるものの、映像と音声は他の作品以上に問題が多い。

総じてこれらのDVDは内容的には興味深い作品が多いものの、映像としてアピールしにくいことは否定できない。

演劇1：鈴木国男（共立女子大学）

大阪芸術大学の石井先生の依頼により、イタリア文化会館所蔵の視聴覚資料のデータベース化の作業に参加した。私は演劇の分野を近藤直樹先生と分担した。

- ・ピランデッロの世界 7本
- ・ダリオ・フォー 1本
- ・20世紀演劇の動向 8本

である。夏季休暇中に全作品を観た。前二者については自分の専門であり、同じDVDを持っているため、比較的早くデータベース化を進められたが、「20世紀演劇の動向」については思ったより時間が掛かった。

今回調査対象であったDVDは映像の画質と音声の質が低く、鑑賞に耐えないものも多々ある。前二者の映画・演劇作品は人気が高いため、これらの作品は既にDVDとして再販されていて、容易に入手できる。その点では、市販のDVDを購入の方が手取り早いかもしれない。

演劇2：近藤直樹（京都外国語大学）

大阪芸術大学の石井先生の依頼により、イタリア文化会館旧蔵の視聴覚資料データベース化の作業に参加した。私が担当したのは方言演劇にかかわる部分で、その多くが19世紀後半から20世紀半ばまでのナポリ方言劇作品である。

その内訳は以下の通りである。

- ・ニーノ・マルトーリオのシチリア方言劇
- ・ジーノ・ロッカのヴェネツィア方言劇
- ・エドゥアルド・スカルベッタのナポリ方言劇
- ・ヴァレンティネッティのイタリア語劇
- ・トトのナポリ方言による映画（原作は前述したスカルベッタのナポリ方言劇）
- ・エドゥアルド・デ・フィリッポのナポリ方言劇
- ・映画監督アントニオーニに関するドキュメンタリー

石井先生、豊原先生、鈴木先生、ニーリ先生そして私近藤の5人で行われた事前のミーティングの席で取り決めたように、「原題」「日本語訳タイトル」「ジャンル」「制作年」「作者」「スタッフ」「上映時間」「内容」「コメント」の9つの項目を設けて、可能な限り全てのDVDに関するデータを埋めた。

その作業方法は以下のとおりである。

- ①全てのDVDを視聴する
- ②DVDから得られる情報をもとに、上記9つの項目を作成する。
- ③足りない部分はイタリアの演劇百科事典などを参照して作成する。

こうした工程によって、2014年の夏季から年末までに、大方の作業を完了した。

唯一、No.13のDVDに関しては、必要なデータを集めることが叶わなかったが、19世紀後半ミラノで活躍した劇作家ベルトラッツィの『我がミラノ El nost Milan』の第二部であろうことだけは理解できた。

方言文化が生活に根付いているイタリアのような国の文化を理解するためには、こうした方言演劇は資料としてきわめて有効ではあるが、以下の点において、全てのDVDが資料的価値を有しているとは思えない。

- ①スカルペッタ、デ・フィリッポ、トトなどの映画・演劇作品は、イタリアにおいても人気があるため、今回視聴した作品は既にDVDとして再販されていて、安価に、そして容易に入手できる。
- ②おそらくは1980年代に市場に流通していたVHSの映像をDVDにダビングしたものであるため、映像、音声ともに、視聴に困難を伴う場合がある。
- ③方言演劇は、イタリア語上級者でも聞き取りが難しく、また扱われている主題も、その地域の文化に根差しているため、簡単なコメント程度では理解が難しい。一つの作品につき、90分程度の講義が必要かと思われるものもある。

DVD複製・会計：豊原正智（大阪芸術大学）

イタリア文化会館より、京都から大阪への会館の移転に伴い、イタリア文化に関わる90本のビデオテープ（VHS）が寄贈された。現在、大阪芸術大学図書館及び教室、各教員研究室の映像設備は、そのほとんどがDVDあるいはBlu-ray用であり、寄贈されたビデオテープを研究ならびに授業への有効活用に資するためには、メディアの変換が必要である。従って、本研究では先ず、それらVHSビデオテープの映像資料をすべてDVDに変換することにした。

90本の映像資料のDVD変換は専門業者に委託されたが、一部がPAL方式（日本のビデオ信号方式はNTSCであり、PALはイタリアの方式）であったため、業者では変換できず、それら一部のビデオテープを、豊原の研究室にあるPAL方式専用のビデオデッキでNTSC方式へ変換した。このようにして、寄贈されたVHSビデオテープがすべてDVDに変換され、次にこの変換された90本のDVDをオリジナルとし、この全資料をイタリア文化会館、大阪芸術大学図書館及び石井元章研究室のために3セットコピーし、さらに、各研究領域ごとに分けられた数十本づつをそれぞれの研究分担者のためにコピーし送付した。このダビング作業のために、専用のDVDデュプリケーターを購入したが、このデュプリケーターは、1本のオリジナルDVDから短時間に3本の複製を同時に行うことができ、非常に効率的であった。

このようにして作成された資料に基づき、各研究分担者は西洋美術史、イタリア映画、ドキュメンタリー、演劇の動向、方言による演劇等に関わる分析・研究を行ない、それらのデータを一括して、私が以下の項目に従い、データベースソフト（商品名：FileMaker Pro 13）を用いデータベース化した。

資料番号

1. 原題、日本語訳
2. ジャンル
3. 制作年
4. 作者(作家)
5. スタッフ(劇作家、キャスト)
6. 上映時間
7. 内容(あらすじ)
8. 解説(作品の意義)

現在作業を継続中であるが、資料が膨大であること、一定の字数に整理すること、文言の統一等に関して非常に難しい作業である。しかしながら、このソフトによるデータベースは、完成すれば様々なキーワードのよる検索が可能であり、今後研究資料として、イタリア研究に関わる教員、大学院生、学部学生、その他一般にとって貴重な資料となろう。

ドキュメンタリー：パオロ・ニーリ(大阪芸術大学非常勤講師)

私の担当した「男の印」「ウンブリアのゴットルド」「オルヴィエート大聖堂」「生きている岩」「1187年制作の十字架」の5本のドキュメンタリーは、美術品の修復や自然を扱った14分から20分の短いものである。しかしながら、内容自体が貧弱なことに加え、映像と音声の質が低く、これらのドキュメンタリーは鑑賞に値しないと考える。

総括

イタリア文化会館より寄贈されたVHSテープが本研究によりDVDにメディアム移行できたことは一つの成果である。またこれらのドキュメンタリーのデータベースも完成間近である。その結果、学生・研究者は容易にこのコレクションにアクセスが可能になることが期待される。各共同研究者の報告が示しているように、これらの中には優れた内容のものが数多く見出だせるものの、共通の問題は映像の画像と音声の質の低さにある。これが21世紀を生きる我々の鑑賞に耐えるか否かは疑問が残る。その意味では、日本語字幕を備え高画質のものが市販されている場合には、そちらを新規購入するのが最良の策と考えられる。市場に出回っておらず、かつ芸術的価値の高いDVDについては本コレクションの中のもの参照することが可能である。

DVD No 1

タイトル *Ti ho sposato per allegria* 愉快だから君と結婚したのさ

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ナタリア・ギンズブルグ

編者=監督 演出 カルロ・パッティストーニ 美術 マリアーノ・メル
カーリ
衣装 アンジェロ・ポーリ
出演 ジュリア・ラッザリーニ (ジュリアーナ)
ジャンピエーロ・ピアンキ (ビエートロ)
マリア・キアラ・マッツァーリ (家政婦ヴィットア)
デリア・バルトルッチ (ビエートロの母)
ガブリエラ・フランキーニ (ビエートロの妹ジネストラ)

上映時間 1時間27分

入カ日 2015/02/16

内容 主人公ジュリアーナは、弁護士ビエートロの妻として裕福な生活を送っている。しかし、生まれは貧しく、それゆえに最初に愛した男から捨てられる。妊娠と中絶、その後にパーティで知り合った現在の夫と、お互いに軽い気持ちで結婚した。ジュリアーナは、今までの人生を家政婦のヴィットリアに物語り、夫と何気ない会話をする。やがて夫の母と妹が食事にやってくるが、姑は教会で結婚式を挙げなかったことを非難するなど、好きなことを喋りまくる。

解説 「マンゾーニ家の人々」「ある家族の会話」などの小説で日本でも知られるナタリア・ギンズブルグの数少ない戯曲である。60年代のブルジョア家庭の室内で交わされる少人数のコミカルな会話の中から、どことなく噛み合わない空虚な人間関係が浮かび上がってくる。主演のジュリア・ラッザリーニは、ミラノ・ピッコロ座で、ジョルジョ・ストレーレル演出の舞台に数多く出演した名女優である。

DVD No 2

タイトル *Tra vestiti che ballano* 踊る衣装の間で

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ビエル・マリーア・ロツ・ディ・サン・セコンド

編者=監督 演出 ジャコモ・コッリ
衣装 M・テレーサ・パッレリー・ステッラ
美術 トンマーゾ・パッサラクア 照明 セルジョ・ベッシ
出演 アンドレイナ・パニャーニ (アンナ・オルローヴァ)
アウグスト・マストラントーニ (ニコラ) エレナ・
ダ・ヴェネツィア (偽のアンナ) カルロ・ダンジェロ
(判事) 他

上映時間 1時間37分

入カ日 2015/02/17

内容 革命の中で娘を失い、イタリアに亡命したロシアの皇女アンナ・オルローヴァはファッション・デザイナーとして成功している。彼女の周囲では、イタリアのブルジョア社会の虚飾が展開される。ある日、かつての執事ニコラが現われ、残された宝石を届けて直後に自ら命を絶つ。その噂が広がり、やがて真の皇女アンナ・オルローヴァを名乗る女が現われる。それは、死んだ娘の乳母で、狂って詐欺師に唆されたのであった。密かに彼女の許を訪れたアンナが昔語りをする、乳母は正気を取り戻すのだった。

解説 シチリア生まれのロツ・ディ・サン・セコンド (1887~1956) は、戦前から戦後にかけて、いくつもの優れた戯曲を発表し、北部と南部、理性と情熱、人間と社会といった対立や軋轢の中に生きる近代人の内面や孤独を描き、ピランデッロにも高く評価された。主演のアンドレイナ・パニャーニは、戦前から活躍している女優で、ゴルドーニ、ピランデッロ、ジャン・コクトー、バーナード・ショーなどの作品で名演技を見せた。その美貌と気品や陰影のある演技は、本作品の皇女アンナにぴったりである。

DVD No 3

タイトル Due dozzine di rose scarlatte 24本の真紅の薔薇

ジャンル 演劇

制作年 1956年

作者=発案者 アルド・デ・ベネデッティ

編者=監督 演出 アルベルト・ガリアルデッリ

出演 カルラ・デル・ポッジョ (マリーナ・ヴェラーニ)
ジャンニ・サントウッチョ (アルベルト・ペラーニ)
ウンベルト・メルナーティ (トンマーゾ・サヴェッリ)
リユー・ボジージョ (家政婦ロジーナ)

上映時間 1時間43分

入力日 2015/02/17

内容 妻のマリーナが旅行に行くことになったので、その間にある伯爵夫人とのアヴァンチュールを楽しもうと、アルベルトは24本の真紅の薔薇を注文し、友人のトンマーゾにロマンチックなカードを書かせ、「謎の男」と署名させる。ところが、目を離した隙に帰宅したマリーナがそれを見つけ、自分に宛てたもののだと思い、夫には自分で買ったとごまかす。これに付け込んで妻をからかおうと、夫は毎日薔薇とカードを届けさせる。しかし「謎の男」に本気で恋をしているような妻の態度に次第に不信を募らせ、密会の約束をさせた上で、裏切りを詰って別れようとする。思わぬ事態の共犯者になってしまったトンマーゾは、薔薇の贈り主は自分だと名乗る。マリーナは自分がからかわれていたことを悟り、夫と和解する。

解説 大戦間に流行した、ブルジョワ喜劇の代表作。戦後も度々上演されている。1936年に俳優として初演したのはヴィットリオ・デシーカで、1940年には映画化され、デシーカの監督デビュー作となる。

DVD No 4

タイトル L'inquisizione 異端審問

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ディエゴ・ファブリー

編者=監督 演出 オッターヴィオ・スバダーロ

出演 トゥーリ・フェーロ (修道院長) ナンド・ガッツォーロ (レナート) ミーラ・ヴァンヌッチ (アンジェラ) パオロ・フェラーリ (ドン・セルジョ)

上映時間 1時間49分

入力日 2015/02/18

内容 舞台は中世ではなく、現代のとある修道院と、その近くにあるホテルの一室である。4人の登場人物が、組み合わせを変えながら2人ずつ会話をするこことによって劇は進行する。その中で、少しずつ過去に起こった出来事や、各人が抱える内面の問題が明らかになってくる。アンジェラの夫レナートは、法学の教授だが、突然すべてを捨てて聖職者になると言い出し、アンジェラは自殺未遂を起こす。修道院長は堅固な信仰心を持つが、その言葉はアンジェラや信仰に疑念を抱く助任司祭ドン・セルジョの心に届かない。セルジョはついに聖職を辞する決心を固め、レナートもまた当初の志を翻す。最後に4人が揃った場面で、自殺未遂の真相が明らかになり、3人はそれぞれに不信を露にするが、院長はひたすら信仰を説く。

解説 ディエゴ・ファブリー (1911~1980) は、戦後イタリアを代表する劇作家の一人で、数多くの戯曲の他に、デ・シーカ、ロッセッリーニ、アントニオーニなどに提供した多くのシナリオも残した。宗教やモラルの問題に正面から取り組んだことで知られ、1946年に発表された本作も、そうしたテーマを持つ代表作の一つである。

DVD No 5,6

タイトル Amleto ハムレット

内容 シェイクスピア「ハムレット」の、かなり原作に忠実な翻訳上演である。

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ウィリアム・シェイクスピア

編者=監督 演出 ヴィットリオ・ガスマン 音楽 ジュゼッペ・ピッ
チョーリ
美術 マリアーノ・メルクーリ
出演 ヴィットリオ・ガスマン (ハムレット) メーモ・ベ
ナッシ (クローディアス) アウグスト・マストラ
トニ (ポローニウス) ジュリオ・ボゼッティ (ホレ
イシヨウ) アンナ・マリア・フェレーロ (オフィーリ
ア) 他

解説 イタリアの作品ではないため、資料的価値はあまりないが、名優ヴィットリ
オ・ガスマンの若き日の演技がたっぷりと見られる。演出はオーソドックス
で、ローレンス・オリヴィエ版を思わせる点も見られる。

上映時間 1時間14分 1時間25分

入力日 2015/02/18

DVD No 7

タイトル L'avventura di un povero cristiano 貧しいキリスト教徒の冒
険

内容 敬虔な修道士ビエトロがケレスティヌス5世としてローマ教皇となり、様々
な軋轢に苦しんだ末、わずか5カ月にして自ら退位し、隠棲した後は後任のボ
ニファティウス8世に迫害され病死するまでの1年ほどの出来事を描き、個人
の信仰と教会組織や民衆との関係を問う作品。

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 イニャツィオ・シローネ

編者=監督 演出 オッターヴィオ・スバダーロ
出演 リッカルド・クッチョッラ (ビエトロ 後のチェレス
ティエノ5世) 他

解説 著名な小説家であり、イタリア共産党創立者の一人としても知られるイニャ
ツィオ・シローネ (1900-1978) の戯曲としての代表作。

上映時間 1時間41分

入力日 2015/02/18

DVD No 8, 9

タイトル La figlia di Jorio イオリオの娘

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ガブリエーレ・ダンヌンツィオ

編者=監督 演出 シルヴェリオ・ブラージ

美術・衣装 ジャンニ・ボルドーリ

音楽 ブルーノ・ニコライ

出演 ジュゼッペ・バルンビエーリ (アリージ) ロルダー
ノ・ルービ (ラザロ) エリザベッタ・カルタ (オル
ネッタ) エドモンダ・アルディーニ (ミーラ)

上映時間 1時間17分 49分

入力日 2015/02/18

内容 結婚を目前に控えた羊飼いのアリージは、男達に追われるミーラをかくまう。彼女は魔術師イオリオの娘と呼ばれ、自身も魔女と恐れられ蔑まれる娼婦だったが、異様な情欲に駆られたアリージは、ミーラと共に山に籠ってしまう。アリージの父ラザロもまた、欲望に突き動かされ、二人の隠れ家に侵入してミーラを犯そうとする。彼女を守ろうとしたアリージは、父親殺しの罪で死刑に処せられることになる。しかし、ミーラは自分がラザロを殺し、魔術でアリージを幻惑したと皆を信じさせ、身代わりとなって火刑に処せられる。ただ一人真実を知るアリージの妹のオルネッタは、ミーラの足元にロブつける。

解説 ダンヌンツィオの戯曲の中で、「聖セバスチアンの殉教」と並ぶ代表作とされる。特に出身地アブルツォの伝説や風俗を取り入れて幻想的で詩的な舞台を作り上げ、愛の犠牲と浄化というテーマを象徴的に描き出しているのが特徴である。

DVD No 10, 11

タイトル Un marziano a Roma ローマの火星人

ジャンル 演劇

制作年 1983年

作者=発案者 エンニオ・フライアーノ

編者=監督 演出 ブルーノ・ラージア アントニオ・サリーネス

出演 アントニオ・サリーネス (火星人クント) 他

上映時間 1時間1分 1時間49分

入力日 2015/02/18

内容 火星人クントは、宇宙船に乗ってローマのボルゲーゼ公演近くに着陸する。たちまち大騒ぎとなり、クントは人々に追いかけてまわされ、ついにはヴァティカンで法王に謁見する。しかし、やがて人々は飽き始めクントを無視するようになる。孤独に苛まれたクントは地球を去ることになる。

解説 1960年に発表された喜劇を、テレビ化したもの。

DVD No 12

タイトル I civitoti in pretura 裁判所のチヴィタ人たち

ジャンル 方言演劇 (シチリア)

制作年 不明

作者=発案者 ニーノ・マルトーリオ

編者=監督 演出 カルロ・ディ・ステーフアノ
ジュゼッペ・パッタヴィーナ (マルシラーラ) マ
リオ・シレッティ (裁判官) マリア・ボスコ
(チッカ) トウッチョ・ムスメーチ (ラーバ)

上映時間 48分

入力日 2015/02/18

内容 世紀末のシチリアのチヴィタという町が舞台。マルシラーラは、同郷人をナイフで刺した罪で告発されたマルシラーラの裁判を軸に、物語は展開する。証人のチッカはマルシラーラの報復を恐れて、北部出身の裁判官と言葉が通じにくいを利用して、真相を語ろうとしない。次の証人ラーバは正直な男だが、生真面目すぎて話が要領を得ない。果てには証人たちが喧嘩を始め、公判は中止となる。

解説 世紀末から20世紀初頭にかけて、シチリア方言演劇を一躍有名にした立役者の一人、マルトーリオのシチリア方言劇。笑劇の範疇にとどまりながらも、北部出身の裁判官とシチリア人特有のメンタリティを持つ証人とのコミュニケーション不全という、後のピランデッロを思わせる場面が興味深い。

DVD No 13

タイトル

ジャンル

制作年

作者=発案者

編者=監督

上映時間 1時間20分

入力日 2015/02/21

内容

解説 *冒頭部分が切れているほかの理由により、情報を集めることが極めて困難。リスト作成不可能。

DVD No 14

タイトル Se no i xe mati no li volemo 正気の方、お断り

ジャンル 方言演劇 (ヴェネト)

制作年 1966年

作者=発案者 ジーノ・ロッカ

編者=監督 演出 カルロ・ロドヴィーチ
チェスコ・パセッジョ (モーミ) セルジョ・ト
ファーノ (ピエロ) ジーノ・カヴァリエーリ (バ
ルトロ)

内容 ヴェネツィアとパドヴァの間に位置する地方都市。ある貴族が死に際して、慈善団体に寄贈した屋敷が舞台。同屋敷の使用権は、生前貴族と放蕩生活を送り、「正気の方、お断り」というサークルを作った9人に当てられている。そのうち3人が存命中だが既に老年に差し掛かり、静かに暮らしている。そこへ弁護士がやって来て、遺言によれば、放蕩生活を送らない者には、屋敷の使用権が認められないという。3人は若い頃のようにハチャメチャな生活を再び送ろうとするが、体がついていかず、命を落とす者、正気を失う者など、笑劇は悲劇的な結末を迎える。

解説 世紀ヴェネト方言演劇を代表するジーノ・ロッカの傑作。1941年には映画化されヒットした。

上映時間 1時40分

入力日 2015/02/21

DVD No 15, 16, 17

タイトル Li nepute de lu sinneco 市長の姪と甥

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1975年

作者=発案者 エドゥアルド・スカルベッタ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポほか

内容 ボツァーノの市長チッチョ・ショシヤンモッカにはフェリーチェとシルヴィアという甥と姪がいる。フェリーチェはミラノで学生生活を送っていたのだが、ナンニーナにキスをしたために、その兄に追いかけられたために。女装をしている。シルヴィアは恋人アキッレを追いかけて、寄宿学校を飛び出してしまい、男装をしている。周囲は二人を逆に取り違えてしまい、そこからさまざまな誤解が生じるが、最終的には解決し、叔父の了承のもと、フェリーチェはナンニーナと、シルヴィアはアキッレと、それぞれ結婚する。

解説 世紀ナポリ方言演劇を代表する劇作家兼俳優エドゥアルド・スカルベッタの代表作を、彼の私生児エドゥアルド・デ・フィリッポが演出・主演。19世紀の古い喜劇が、デ・フィリッポの現代的なセンスを得て、新作喜劇として甦っている。
*15は第一幕、16は第二幕、17は第三幕。

上映時間 220564638

入力日 2015/02/21

DVD No 18

タイトル Pignasecca e Pignaverde ケチとしみつたれ

ジャンル イタリア演劇

制作年 1957年

作者=発案者 エメリコ・ヴァレンティネッティ

編者=監督 演出・主演 ジルベルト・ゴーヴィ演出・主演

内容 フェリーチェは娘のアマーリアと従兄弟のアレッサンドロを結婚させようとしている。だがアマーリアは、アメリカへ出稼ぎに行った近所のエウジェニオを今も思い続けている。アマーリアとアレッサンドロの婚約が決まりかけた時に、アルゼンチンで成功したエウジェニオがイタリアに帰国してくる。彼はアマーリアとの結婚を認めてくれるよう、フェリーチェに頭を下げるが、フェリーチェは取り合わない。娘がアルゼンチンに行ってしまうのが耐えられないのだ。ところがエウジェニオの上司マニエルが、エウジェニオをイタリアに残すことを伝えると、フェリーチェは二人の結婚を承認する。

解説 名優ゴーヴィの熟演が見どころ。

上映時間 1時間40分

入力日 2015/02/21

DVD No 19

タイトル Miseria e Nobiltà 貧困と高貴

ジャンル 喜劇映画

制作年 1954年

作者=発案者 エドゥアルド・スカルベッタ

編者=監督 監督 マリオ・マットーリ
出演 トト（ドン・フェリーチェ） ソフィア・ローレン
（ジェンマ）

内容 ナポリの貧乏人フェリーチェは、息子のベッペニエッロ、愛人のルイゼッタ、友人のバスタワーレ、その妻コンチェッタ、その娘ペベラと暮らしている。ある日、友人である侯爵の子息エウジェニオが、両親のふりをして恋人ジェンマの父親と会ってくれるよう頼まれる。ジェンマはバレリーナでその父親も成金であるため、両親に反対されているのだ。こうして貧乏人のフェリーチェたちは貴族に成り代わって、珍騒動を繰り広げる。

解説 世紀の劇作家スカルベッタの代表作の映画版。トトの破壊的な演技は伝説的。若きソフィア・ローレンの美しさも必見。

上映時間 1時間35分

入力日 2015/02/21

DVD No 20, 21, 22

タイトル Il medico dei pazzi 気違いたちの医者

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1959年

作者=発案者 エドゥアルド・スカルベッタ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ

上映時間 217574634

入力日 2015/02/21

内容 ロッカセッカの市長として悠々自適に暮らしているフェリーチェには、チッチロという甥がいた。彼は叔父からの仕送りを受けて、ナポリで怠惰な学生生活を送っていたのだが、その叔父から多額の金銭を引き出すために、今では精神科の医者となり、自分の病院を営んでいると嘘をついている。その叔父がナポリにやってくる。チッチロは自分が暮らしている安下宿を精神病院と偽って、奇妙な隣人たちを患者として紹介する。誤解と珍騒動が錯綜しながら物語は展開し、最後に全てを知ったフェリーチェは甥を許し、本当の医師になるためしっかり勉強するよう諭して、ナポリを後にする。

解説 名優エドゥアルド・デ・フィリッポが父スカルベッタの劇を演じている。とりわけ同喜劇は、後のデ・フィリッポの戯曲に大きな影響を与えている。
*20は第一幕、21は第二幕、22は第三幕。

DVD No 23

タイトル Non ti pago! お前には払わない!

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1964年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリッポ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ

上映時間 1時間52分

入力日 2015/02/21

内容 フェルディナンドはナポリで宝くじ店を営み、毎週宝くじを買うのだが、当たったためしがない。一方、店の従業員のマリオは当たりに当たって、ついに大金を当てる。彼が気に食わないフェルディナンドは、その当選は自分のものだ、当選券を取り上げる。最終的にはマリオに券を渡すのだが、死んだ父親に「この当選券が本当は俺のものだっていうのなら、奴に呪いをかけてやってくれ」と語りかける。その日からマリオは災難に見舞われ、ついにフェルディナンドに券を渡して、呪いを取り下げてくれるようお願い出る。マリオを愛している娘の涙を見たフェルディナンドは、ついに観念してマリオと和解する。

解説 宝くじ狂や死者との交信など、ナポリの民衆文化を理解する上では欠かせない要素が数多く紹介されている。

DVD No 24

タイトル Filumena Marturano フィルメーナ・マルトゥラーノ

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1962年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリッポ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ
レジーナ・ピアンキ

上映時間 1時間40分

入力日 2015/02/21

内容 元結婚のフィルメーナは、菓子店経営のドメニコの愛人を25年続けてきたが、ドメニコに若い愛人が出来たため、追い出されようとしている。フィルメーナは瀕死の重病を装って、見事妻の座に収まる。ところが弁護士に結婚は無効だと言われ、フィルメーナはドメニコの家を後にすることになる。彼女は去り際に、息子が三人いて、そのうちの一人はドメニコの子供だと言う。その日からドメニコは息子のことが気になりだし、最終的にはフィルメーナと結婚して、三人とも自分の子供として認知し、新しい家族が誕生する。

解説 デ・フィリッポの最高傑作として名高い戯曲。イタリア語とナポリ方言が混じり合い、方言もまた、階級や教養に応じて、様々なレベルで使い分けられている。1964年にヴィットリオ・デ・シーカが、マストロヤンニとソフィア・ローレンを使って映画化している（邦題は『あゝ結婚』）。

DVD No 25

タイトル L'Arte della commedia 喜劇の流儀

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1976年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリッポ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ

上映時間 2時間

入力日 2015/02/21

内容 地方都市を巡業する劇団の座長カンペーゼは、新しく赴任してきた県知事に面談を申し出る。可動式の舞台が火事で焼失したため公演がままならず、客を呼ぶためにも県知事が芝居を見に来てもらいたいというのが彼の希望だ。ところが県知事はその依頼を拒否し、別の町で公演するよう、旅費を支給しようとする。県知事は立ち去るカンペーゼに、旅費免除の書類を渡すつもりが、本日の面談者のリストを渡してしまう。次々と登場する面談者が、果たして本当の市民なのか、それともカンペーゼの劇団員なのか、県知事は猜疑心に捕らわれる。薬剤師のピーカが目の前で服毒自殺をしたところで、カンペーゼが面談者リストを持って再登場。この自殺も茶番だろうと怒鳴る県知事に、カンペーゼは、今に警官が来るでしょうが、劇団の衣装には警察官のそれもあると一言残して退場する。

解説 ナポリというコンテキストから離れ、デ・フィリッポの演劇論が全面に出された戯曲。

DVD No 26

タイトル La grande magia 大魔術

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1964年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリッポ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ

上映時間 1時間54分

入力日 2015/02/21

内容 嫉妬深いそれを自認していないカロージェロに愛想をつかした妻のマルタには愛人がいる。滞在先のホテルで、愛人とのひと時を楽しみたいマルタは、そこでマジックショーをしていたマルヴェーリヤと話をつけて、箱の中に入ってその場を抜け出す。ところが「ひと時」だったはずの逢瀬が、駆け落ちになってしまう。マルヴェーリヤは妻を出せと迫るカロージェロに、小さな箱を示して、妻を信じているならば、この箱を開けると妻は帰ってくる。ところが少しでも疑いがあれば、もう戻って来られないという。カロージェロは大事にその箱を抱えて開けることなく、四年の歳月が過ぎた。愛人に捨てられたマルタは夫の元に帰ってきたが、カロージェロはそれを幻影だと言い、箱を開けることを拒む。

解説 ビランデッロのすぎるとして長く上演されなかったが、1984年にストレーレルが上演し、再評価された。

DVD No 27, 28

タイトル Uomo e galantuomo 男と紳士と

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1975年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリッポ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ

上映時間 2時間31分(68分/83分)

入力日 2015/02/21

内容 裕福な若者アルベルトと、その友人で劇団の座長ジェンナーロの、それぞれのエピソードが混じり合いながら物語は展開する。アルベルトは恋人のビーチェから、妊娠をしたため、もう会えないと言われた。彼は何とかしてビーチェの家を突き止め中に入り、彼女と結婚をしたいと申し出る。ところがビーチェは既婚者で、そこは彼女が夫と暮らす家だったのだ。アルベルトはジェンナーロの助けを借りて、気遣いのふりをしてその場を後にしようとする。そこへビーチェの夫の伯爵から、本当に精神病院に行くことで浮気された夫の体面を保つか、あるいは銃で撃たれるかどちらかを「紳士らしく」選ぶように迫られる。ところが伯爵もまた既婚者と浮気をしていたことがビーチェに知られると、気遣いのふりをして退場。アルベルトとジェンナーロはようやく解放される。

解説 劇作家デ・フィリッポの記念すべき最初の長編戯曲。リアリズム性の高い劇中劇など、後のデ・フィリッポ劇の特色が濃厚に見られる。

DVD No 29, 30, 31

タイトル Il sindaco del Rione Sanità サニタ地区の顔役

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1964年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリップ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリップ

内容 ナポリの貧民街サニタ地区のドン・アントニオは、住民たちの揉め事や対立を取める「ボス」であった。法律が庶民を守ってくれないのなら、たとえ違法でも誰かが守るべき、というのが彼の理屈である。だが「やるか、やられるか」の対立は不幸の連鎖を生むと考え、復讐を厳禁している。35年間そんなボスに仕えてきた助手のファビオ医師は、この生活から足を洗いたい、アメリカに渡航しようとするが、ドン・アントニオは認めない。そんなある日、ラフィルッチョと、ハン屋を経営する比較的裕福なその父サンタニエッロの対立が激化する。父は新しい女を作り、息子を廃嫡したのだ。ラフィルッチョは「やるか、やられるか」の考えに凝り固まり、ドン・アントニオの言葉に耳を傾けようとしない。ドン・アントニオは息子に気を付けるよう助言すべく、サンタニエッロの家を尋ねるが、殺されるかと誤解したサンタニエッロにナイフで刺されてしまう。だがドン・アントニオは復讐しないことを決め、何事も無かったかのように食事を開き、親子を和解させて、息を引き取る。ファビオ医師はアメリカ行きを諦め、ドン・アントニオの遺志を継ぐ。

解説 2000年以降世界中で知られるようになった、ナポリのマフィアである「カモッラ」。その、かつての仁義に満ちた時代の終焉を描いた社会派劇。
*29は第一幕、30は第二幕、31は第三幕。

上映時間 233566037

入力日 2015/02/21

DVD No 32, 33

タイトル Gli esami non finiscono mai 試験は終わらない

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1976年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリップ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリップ

内容 青年グリエルモ・スベランツァは大学の卒業試験に合格したが、次は恋人のジリオラとの結婚を、彼女の両親に認めてもらう「試験」が待っていた。結婚の承認は得たものの、仕事でのキャリアという条件が課された。グリエルモは二人の子供を得て、仕事での成功も手に入れたが、幸せとはいえなかった。妻のジリオラは不実で愚かで、子供たちはそんな母親を信用し、父親を顧みない。友人のラ・スビーナはグリエルモに嫉妬し、彼を陥れようとする。中年になったグリエルモは心の安らぎを求めて、ボナーリアという貧しい娘と恋に落ちる。だがボナーリアは周囲の人間の悪意や悪口という「試験」を乗り越えられずに、グリエルモと別れることを決意する。老年になったグリエルモは病気を装い家に閉じこもり、誰とも口を奇行ときこうとしない。質素な葬式という彼の最後の願いも聞き入れられず、まるで祭のような派手な葬儀の中、この世を去る。

解説 デ・フィリップ最後の戯曲。青年と中年と老年を、色違いの三種の髪を使うことで演じ分けている。
*32は第一幕、33は第二幕と第三幕。

上映時間 2時間53分(78分/95分)

入力日 2015/02/21

DVD No 34, 35

タイトル De Pretore Vincenzo デ・プレトーレ・ヴィンチェンツォ

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1976年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリップ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリップ

内容 私生児で身寄りもないヴィンチェンツォは、盗みをしながら日々の生計を立てていたが、自宅で逮捕され、刑務所に送られる。出所した彼を迎えた恋人のニヌッチャは、今後悪いことをしないよう、聖人の保護を受ければよいと諭す。ヴィンチェンツォは聖ヨハネを自分の守護聖人に運び、盗みが成功するとロウソクや花を買って、聖ヨハネ像に寄進するようになる。だがある日、大金を盗んだ彼に気づいた男が、ヴィンチェンツォを銃で撃つ。撃たれたヴィンチェンツォは、天国の門の前にいる夢を見る。彼を天国に入れようとする聖ベテロ。だが聖ヨハネは自分の信者であるヴィンチェンツォを天国に招き入れる。文句を言うなら妻（聖母マリア）と息子（イエス）を連れて、別の場所に天国を作ると。夢から覚めるとヴィンチェンツォは病院のベッドにいて、それから間もなくして命を落とす。

解説 イタリア全土で広く知られた民話を、現代のナポリに当てはめた寓話的な要素のある戯曲。

* 34は第一部、35は第二部。

上映時間 2時間27分(73分/74分)

入力日 2015/02/21

DVD No 36, 37, 38

タイトル Natale in casa Cupiello クビエッロ家のクリスマス

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1977年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリップ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリップ

内容 クビエッロ家の家長ルーカは、毎年クリスマスの前には、イエスの生誕をかたどった模型「プレセービオ」を作成する。彼はそこに理想の家族を見ているのだ。ところが現実の家族はひどいもので、嫁に行った娘のニヌッチャは不倫をし、家にいる息子のトシマジーノは、学校も仕事も長続きしないで遊び歩いている。クリスマス・イブの夜、そうとは知らずに、娘夫婦と娘の愛人を両方パーティに招いてしまい、両者が対立し、ついにルーカは見ないようにしてきた現実の家族を目の当たりにする。ショックのあまり卒中になったルーカは、プレセービオの幻影を追うようにして、この世を去る。

解説 クリスマスになるとナポリでは、いたるところでこの劇が上演され、テレビでは毎年のように再放送されている。デ・フィリップの戯曲の中でも、おそらく最もよく知られた作品。

* 36は第一幕、37は第二幕、38は第三幕。

上映時間 212535029

入力日 2015/02/21

DVD No 39

タイトル Le voci di dentro 内なる声

ジャンル 方言演劇 (ナポリ)

制作年 1978年

作者=発案者 エドゥアルド・デ・フィリッポ

編者=監督 演出・主演 エドゥアルド・デ・フィリッポ

上映時間 1時間30分

入カ日 2015/02/21

内容 アルベルトは弟カルロと、けてして喋らず花火で意志を伝えるニコラ叔父の三人で暮らしている。ある夜、隣のチンマルータの人々が、友人アニエッロを殺害して壁に埋めるという夢を見て、それを現実の事件と思い込み、警察に届け出る。チンマルータ家は家宅捜査され、一家は逮捕されるものの、死体は出てこないし、依然としてアニエッロは行方不明のままである。翌日、チンマルータ家の人々は、一人一人アルベルトのもとを訪れて、彼を懐柔しようとし、果てには本当に殺害しようとする者まで出てくる。そんな一家の中には、家族の他のメンバーに対する猜疑心が生じている。最後にアルベルトは、全ては夢だったことを告白するが、この「事件」のために、みんなが潜在的には本物の殺害者になってしまったと主張する。

解説 1948年発表の戯曲のスタジオ撮影版。言葉による会話を諦め、花火を使ってコミュニケーションをとるニコラ叔父は実に印象的。

DVD No 40

タイトル Berretto a sonagli 狂人の帽子

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ルイージ・ビランデッロ

編者=監督 演出 エドモ・フェノーリオ
美術 ルーチョ・ルチェンティエーニ
照明 グイード・カラッチョーロ
衣装 ヴェーラ・マルゾット
出演 サルヴォ・ランドーネ (チャンバ)
アニタ・ラウレンツィ (ベアトリーチェ・フィオーリーカ)
シルヴィオ・スパッチェージ (警察署長代理スバノ)
オリンピア・カヴリージ (チャンバの妻ニーナ)
他

上映時間 1時間35分

入カ日 2015/02/21

内容 シチリアの小さな町に住む高官フィオーリーカの妻ベアトリーチェは、夫とその部下である書記チャンバの妻ニーナとの不倫を知って逆上し、夫を告発すべく警察署長代理スバノを呼びつける。スバノは面倒を避けるためにベアトリーチェに翻意を促すが彼女は受け付けない。そこへチャンバがやってきて、事が公になれば、自分は名誉を守るために自ら妻を殺さなければならないと説く。しかし実際に夫が逮捕されるとベアトリーチェは後悔し事を収めようとするが、すでにスキャンダルは町の人々の知るところとなり、名誉を傷つけられたチャンバは納得せず、執拗にベアトリーチェを追い詰める。結局彼女は狂人に仕立てられ、鈴付きの帽子を被って人々の前で喚きたてるうち、実際に正気を失っていく。

解説 ビランデッロの代表作の一つとして、現在でも上演されることが多い。彼の文学の基盤となったシチリアの因習的な社会と、上流階級の偽善性において、虚偽と真実、狂気と正気の境が曖昧となり、人間のアイデンティティが脅かされるという、他の作品において深く展開される作家固有のテーマが、シンプルな形で提示されている。この上演では、チャンバを演じる名優サルヴォ・ランドーネの演技が見ものである。

DVD No 41

タイトル L'uomo dal fiore in bocca 口許に花のある男

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ルイーゼ・ピランデッロ

編者=監督 演出 マウリツィオ・スカバーロ
美術 ジェリアーノ・トゥッリオ
照明 フランコ・A・フェラーリ
衣装 ヴェーラ・カローテヌート
出演 ヴィットリオ・ガスマン (口許に花のある男)
ジェンナーロ・ディ・ナポリ (カフェの客)

上映時間 23分

入力日 2015/02/21

内容 とある駅のカフェで行きずりの男が二人、会話している。しかしそれぞれの物の見方、考え方はずれていて、話は噛み合わない。最後に一方が秘密を打ち明ける。髭に隠れて見えないが、彼は口許に花のような腫瘍ができていて、あとわずかしが命が残されていないという。それゆえ、彼には周囲の物事が普通の人は異なって見えるのだ。

解説 短い一幕の作品だが、真実の一つではなく、見る者によって変わってくるという、ピランデッロの基本的テーマが端的に示された佳作である。戦後イタリアを代表する名優、ヴィットリオ・ガスマンの演技が魅力的である。演出のマウリツィオ・スカバーロも、いくつもの劇場の芸術監督を務めるなど長く活躍した、イタリア演劇界を代表する一人である。

DVD No 42

タイトル Vestire gli ignudi 裸に服を着せる

ジャンル 演劇

制作年 1986年

作者=発案者 ルイーゼ・ピランデッロ

編者=監督 演出 ジャンカルロ・セーベ
美術・衣装 パオロ・トンマーゾ
音楽 ステファノ・マルクッチ
出演 マリアンジェラ・メラート (エルシリア) ルイーゼ・
ディベルティ (グロッチェ領事) ダニエーレ・グリッ
ジョ (元海軍大尉フランコ・レスビーガ) 他

上映時間 1時間41分

入力日 2015/02/21

内容 イズミルの領事の家で家政婦をしているエルシリアは、婚約していた海軍士官に捨てられてしまう。それに付け込んだ領事は彼女と関係を結ぶが、エルシリアが目を見失った隙に領事の娘がテラスから転落して死んでしまう。領事の家を追われたエルシリアは自暴自棄になり、服毒自殺を図る。病院に運ばれ一命を取り留め、不幸な過去と決別するため、婚約者に捨てられて自殺しようとしたという身の上話を作り上げると、それが新聞に載って人々の同情を集める。これを知って彼女を捨てた士官は再び彼女の許に戻ってくるものの、領事との関係を知るに及んで彼女を非難する。今度は世間も彼女をふしだらな女と見なし、領事の娘の死に対する責任まで追及する。絶望したエルシリアは再び毒を仰ぐ。

解説 通俗的なメロドラマの体裁を取り、あまり知られていないピランデッロの商業演劇作家的手腕を見ることができる作品である。しかし、自らに何の価値も見出せない平凡な「裸」の人間が、他人の思惑によって勝手に「服」を着せられ、翻弄された人生を歩んだ末、最後には押しつけられた「服」に絶望するというテーマは、人間のアイデンティティや価値観の不確実性を鋭く描く他の代表作に通じるものと考えられる。主演のマリアンジェラ・メラートは、ダリオ・フォアの劇団を始め各地の舞台や映画で活躍した人気女優で、映画「流されて」で日本でも知られている。

DVD No 43

タイトル *L'uomo, la bestia e la viutù* 男、野獣、美德

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ルイージ・ピランデッロ

編者=監督 演出 カロロ・チェッキ
美術・衣装 セルジョ・トラモンディ
衣装 ステファニア・ベネッリ
出演 カロロ・チェッキ (パオリーノ) ラファエッラ・アジ
ム (ベレツラ夫人) カロロ・モンニ (ベレツラ) 他

上映時間 1時間33分

入力日 2015/02/21

内容 パオリーノ教授(男)は立派な人物として通っているが、実は貞淑を装うベレツラ夫人(美德)と不倫をしている。彼女の夫(野獣)は船乗りで、ナポリに女を囲い、たまに帰宅しても全く妻を顧みない。そうこうするうちに夫人は妊娠してしまい、世間体を取り繕うためにも、子供は夫のものであるということにしなければならぬ。夫が航海に出る前に何とか妻と関係を持たせようと、パオリーノは編葉まで用意し、苦心惨憺の手立てを準備するが、事はなかなか思惑通りには運ばない。翌朝、首尾よく運んだという合図がないことに動転したパオリーノが必死で探りを入れる所へ、寝坊した夫人が悠々と姿を現わして事の成就を示す。

解説 外見と内面の不一致というピランデッロのテーマは一貫しているものの、笑劇的手法が非常に効果的に使われている異色作で、問題作ばかりではないピランデッロの幅広い作劇術を示している。イタリアでも人気があり、しばしば上演されている。

DVD No 44.45

タイトル *Sei personaggi in cerca d'autore* 作者を探す六人の登場人物

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ルイージ・ピランデッロ

編者=監督 演出 ジョルジョ・デ・ルッロ
美術 ビエル・ルイージ・ピッツィ
出演 ロモロ・ヴァッリ (父) エルサ・アルバーニ (母) ロ
ゼッタ・ファルク (娘) フェルッチョ・デ・チェレー
ザ (演出家) 他

上映時間 1時間 1時間15分

入力日 2015/02/21

内容 とある劇場で、芝居のリハーサルが始まろうとしている。そこへ6人の人物がいつの間にか姿を現わす。部外者として追い出されようとするが、自分達は作者が途中で投げ出したために結末がつかずにさまよっている登場人物であると言いつくす。そしてその物語を完結させてくれと演出家に懇願する。身の上話の売り込みと想った演出家は、それでも興味を示し、彼らの語る物語を一座の役者たちに演じさせようとする。それに一々文句をつける6人の人物達との間に悶着が続くが、次第に彼らの状況が明らかになり、いつしかそこで展開しているのが、架空の話なのか現実なのか区別がつかなくなり、演出家や俳優達も引き込まれていく。6人は父と母、そして4人の子供たちなのだが、彼らの背後にある複雑で不幸な関係が次第に明らかになる。ついに決定的な場面にさしかかった所で、事態は意外な展開を遂げ、人物達は姿を消す。

解説 数多いピランデッロの戯曲の中でも最も有名で、最も上演頻度の高い作品とされるのみならず、近代演劇史上に重要な位置を占める作品である。「演劇」や「創作」という現象そのものをテーマとしたいいわゆるメタ・シアターの代表的な例であるとともに、ピランデッロの世界観を秀逸な方法で示したものとされる。この上演は、戦後イタリアの名優にして名演出家であるロモロ・ヴァッリを中心として、極めて正統的でレベルの高いものと評価されている。外国語および演劇の教材としても利用価値の高いものと思われる。

DVD No 46,47

タイトル *Così è, se vi pare* (あなたがそう思うならば) そのとおり

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ルイーダ・ピランデッロ

編者=監督 演出 ジョルジョ・デ・ルッロ
美術 ピエル・ルイーダ・ピッツィ
出演 ロモロ・ヴァッリ (ラウディージ) パオロ・ストッパ
(ボンザ) ロセッラ・ファルク (ボンザ夫人) リー
ナ・モレリ (フローラ夫人) フェルッチョ・デ・
チェレーザ (アガッツィ県会議員) エルサ・アルバー
ニ (アマリア夫人) 他

上映時間 1時間4分 1時間9分

入力日 2015/02/21

内容 ある地方都市の上流階級のサロンで、最近赴任して来た書記ボンザの家庭のことが話題になっている。家族と言ってもは妻とその母であるフローラ夫人しかいないのだが、別々に家を借り、ボンザは姑の家に足繁く出入りするに、妻は町はずれの建物の最上階のアパートから一步も外出せず、母とも手紙のやり取りをするばかりである。どのような事情があるのかと人々が詮索する所へ、ボンザがやってきて説明する。それによると、フローラ夫人は死んだ先妻の母であるが、娘の死を受け入れられず、現在の妻を娘と信じ込んでいるのだという。しばらくすると今度はフローラ夫人が現われ、狂っているのはボンザの方で、事情があって一旦引き離された妻が戻ってきて、本人とは認めずに再婚したと言いつけるのだという。一家の暮らしていた村は地震で住人のほとんどが死に絶え、記録も残っていない。人々の疑念が募る中、ついにボンザ夫人が姿を現わすが、真相ははぐらかされたままで終わる。

解説 ピランデッロの代表作の一つであり、その世界観が最も端的に示された作品とされる。

作中に、上流階級の一員でありながら、彼らの好奇心を冷笑的に眺めるラウディージという人物が登場し、作者の分身のような役割を果たす。彼によって、真実は一つではなく、見る者によって異なるのだという劇全体のテーマが説明される。同時に閉鎖的・排他的でありながら、異なる他者に対する異常なほどの興味を示す狭い人間社会を風刺した風俗劇的側面も巧みに浮かび上がらせる。ラウディージを演じるロモロ・ヴァッリ、ボンザのパオロ・ストッパ、フローラ夫人のリーナ・モレリという、ルキーノ・ヴィスコンティの一座で数々の名舞台や映画を彩った名優が、適役で顔を揃えているのも貴重である。

DVD No 48

タイトル *La patente* 免許

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ルイーダ・ピランデッロ

編者=監督 演出 ルイーダ・ザンバ
出演 トト (キアルキアロ)

上映時間 14分(前半27分は「口許に花のある男」とその解説を収録)

入力日 2015/02/21

内容 ロザリオ・キアルキアロという男が、人を呪ったという罪で告発される。判事は、迷信に基づく不当な告発であるとして却下しようとする。事実、キアルキアロ (明明白白とでもいう意味) は、そのような噂によって職を失い、娘も結婚できないでいる。同時にまた、そうした評判によって、呪いを恐れる人々から何がしかの金を得ているという事実もある。実は、キアルキアロ自身が、告発を逆手に取り、裁判所の認可によって「呪い」の免許を得ようとするのである。裁判中に起こった不吉な出来事におびえる判事たちによって、もくろみ通り免許が与えられてしまう。

解説 笑劇的な手法を用いながら、人が世の中で生きる上で、望むと望まざるとに関わらず被らなければならない「仮面」の意味を問うピランデッロ的テーマを持つ作品である。そのグロテスクさを浮かび上がらせるには、主人公の軽妙さがむしろ効果的である。ナポリ喜劇の大スターで、数々の映画に出演し、圧倒的な人気と認知度があり、独特の演技を見せるトトは、まさに適役といえるだろう。

DVD No 49

タイトル **Maestri del cinema: Michelangelo Antonioni** 映画の巨匠：ミケランジェロ・アントニオーニ

ジャンル ドキュメンタリー／映画

制作年 不明

作者=発案者 ジョヴァンニ・パトロニー

編者=監督 編集 ジョヴァンニ・パトロニー

内容 映画監督アントニオーニの作品紹介に、インタビューを交えながら、彼の映画の魅力に迫る。

解説 アントニオーニ映画の名場面を味わうことができる。

上映時間 1時間30分

入力日 2015/02/21

DVD No 50, 51

タイトル **Mistero buffo** ミステーロ・ブッフオ

ジャンル 演劇

制作年 不明

作者=発案者 ダリオ・フォー

編者=監督 作・演出 ダリオ・フォー
音楽 フィオレンツォ・カルビ
照明 ジャンピエロ・ブリーティ
出演 ダリオ・フォー フランカ・ラーメ

内容 空腹のアルレッキーノ、空飛ぶノルチャの聖ベネディクト、ラザロの復活、教皇ボニファティウス8世、フランスの下僕スカパン、イギリスの弁護士、十字架のマリア、カナの饗宴、ジョングルールなどのエピソード（パロディ）が、解説とアドリブ入りで次々と演じられる。

上映時間 2時間37分 2時間19分

入力日 2015/02/21

解説 ミステーロとは、ミステールつまり中世聖史劇の意味であるが、ここにブッフオ（道化）がつくことによって、ダリオ・フォーの創作による独創的なパロディ劇となる。唯一、フォーの妻で演劇上のパートナーでもあった名女優フランカ・ラーメによって演じられる十字架のマリアや、ラザロの復活など、聖書に題材をとったものもあるが、内容は独自のものになっている。また、後半は中世の大道芸人（ジョングルール）の演じた様々な芸を独自に再現したものが盛り込まれる。いずれの場面も風刺とオリジナリティあふれるものばかりで、長年にわたり様々な場面で演じられてきた。映像に見るように、装置や道具など全く使わない一人芝居であり、オープンな空間で観客との対話の中で繰り広げられる。それだけに即興性も高く、厳密には同じものは一つとしてないだろう。当意即妙のアドリブも魅力のうちである。とはいえ、ここにも見られるいくつもの練り上げられた基本形はフォーの18番といってもよいもので、何度見ても面白く、根強い人気を誇る。言葉も変幻自在で、古い方言やフランス語・英語のパロディなども登場し、イタリア人でもすべて聞き取ることはできないと言われる。しかし、わかりやすい説明と豊かな身体性に支えられて、常に見る者を惹きつけている。言葉を全く解さなくても、ライブの芸術としての演劇のエッセンスが十分に伝わってくるだろう。

DVD No	52	内容	1585年以降シクストゥス5世を筆頭とする歴代の教皇に招聘されてローマで活躍した数人の建築家によって、アヴィニョンに幽囚されて教皇が不在となったため14世紀以降荒廃していたローマはバロック美術の新しい顔を持つことになる。本編は、シクストゥス5世に重用されたドメニコ・フォンターナ(1543-1607)、インノケンティウス12世に仕えたカルロ・モデルノ(1556-1629)、ジャン・ロレンツォ・ベルニーニのライヴァル、フランチェスコ・ボルロミーニ(1599-1667)、ベルニーニと30年に亘って共同制作をした彫刻家アントニオ・ラッジ(通称ロンバルド1624-1686)らの作品を解説する。これらの作家達は総てスイスのティチーノ州からやってきており、この地方は数世紀にわたって優れた建築家や彫刻家を輩出した。彼らこそが現在へと続くローマの街の姿を作り上げたのである。
タイトル	I Magistri Ticinesi che hanno cambiato il volto di Roma 都市 ローマの姿を変えたティチーノ出身の建築家達		
ジャンル	美術史		
制作年	1997年		
作者=発案者	記載なし		
編者=監督	監修 ロレス・ピットーニ、ジャンルイージ・デ・ステーフア		
上映時間	25分	解説	単にそれぞれの作家のモノグラフィック的な総括をするのではなく、ティチーノ州の出身である点を強調することで、バロック美術を担った作家たちの別の側面が見えてくる。山間の寒村であるティチーノはそれ自体絢爛豪華な建物や彫刻を有しているわけではないが、イタリア諸国やフランスに至るまでの広い地域に中世から多くの石工や彫刻・建築家を送り込んできた。わが国ではあまり知られていないが、この事実を認識することはイタリアの彫刻・建築史を理解する上で重要である。カメラワークは、バロック期の建築や彫刻を我々の視線の高さから見せることによって、対抗宗教改革期の美術が持っていた人を巻き込むような視覚効果を体験できる。
入力日	2015/02/22		

DVD No	53	内容	イタリアを代表する美術館や建物、研究所から10の機関を選び、そこに収蔵される作品ばかりでなく、修復などの活動をオムニバス形式で紹介する。内容は貴石博物館(フィレンツェ)、ウッフィーツィ美術館(フィレンツェ)、スキファノイア宮殿(フェルラーラ)、図(トレント)、結婚の間(マントヴァ)、公の宮殿(シエナ)、ノルマン大聖堂(モンレアール)、テ宮殿(マントヴァ)、王宮礼拝堂(バレルモ)、トルナブオーニ家礼拝堂とブランカッチ家礼拝堂(フィレンツェ)である。
タイトル	Wonderland, Arte e città, Dieci gioielli dell'arte italiana 不 思議の国、美術と都市、イタリア美術の至宝10		
ジャンル	美術史		
制作年	不明		
作者=発案者	台本 マリアーノ・ミノーレ		
編者=監督	監督 ヴィットーリオ・アルメンターノ		
上映時間	1時間43分	解説	通常は見ることのできない貴石博物館内部の修復活動や、美術館、建物の内部を詳らかに見せてくれる点で、非常に興味深い映像である。後に出版されることになる優れたシリーズ『Mirabilia italiae(イタリアの奇跡)』の先駆的な役割も幾分担っていると思われる。しかしながら、映像と音声にかなりの難がある。
入力日	2015/02/22		

DVD No 54

タイトル La Cupola di Santa Maria del Fiore, Il cantiere del restauro
花の聖母大聖堂大円蓋、修復現場1980-1995

ジャンル 美術史

制作年 1995年

作者=発案者 監督 ガブリエッラ・ラザーニ

編者=監督 制作 ドナテッラ・シッラ、ダニエレ・トンマーゾ

上映時間 20分

入力日 2015/02/22

内容 聖母に捧げられたフィレンツェの大聖堂は、1436年に建築家フィリップ・ブルネッレスキが建物を完成し、16世紀にジョルジョ・ヴァザーリとフェデリコ・ズッカリが円蓋フレスコを描き終えた。しかし、5世紀を超える経年変化に対応するため、修復が計画された。フレスコ画全体を覆うように足場が組まれ、1980年から1995年まで科学的調査に基づいて徹底的な修復が行われた。本編はその修復の記録である。最後に修復前と修復後の比較が行われている。

解説 大規模なフレスコ画や建物の修復がどのように行われるのかを詳しく見せてくれる。特に、オリジナルが欠けてしまった部分に、足場が上がっている者だけが見えるようにハッチングで彩色していく様など、普段は見られない修復の様子を見ることができる。足場のあるときにのみ撮影できた貴重なドキュメンタリーである。

DVD No 55

タイトル Dopo Caravaggio. Bartolomeo Manfredi e la manfrediana
methodus カラヴァッジョ以後。バルトロメオ・マンフレ
ディとマンフレディ方式

ジャンル 美術史

制作年 1988年

作者=発案者 監督 アルベルト・モレッリ

編者=監督 監修 ミーナ・グレゴリー他

上映時間 20分

入力日 2015/02/22

内容 ヴァイオリン製造で有名なクレモナ市は、カラヴァッジョの最も有名な追隨者の一人であるバルトロメオ・マンフレディ（1587-1620/21）とその周辺画家に光を当てた本編と同名の展覧会を1988年5月14日から6月16日まで同市のサンタ・マリア・デッラ・ビエタ聖堂を使って開催した。本編はその記録である。

解説 日本ではほとんど知られていないマンフレディの芸術を、おそらくローマで師事したであろうカラヴァッジョのそれと比較しながら、明らかにしていく。珍しい展覧会を追体験できるビデオである。

DVD No 56

タイトル Giorgio Morandi 1890/1990 Mostra del centenario ジョル
ジョ・モランディ生誕100周年記念展1890/1990

ジャンル 美術史

制作年 1990年

作者=発案者 監督 パオロ・メルクーリオ、マッシモ・ガウディオオーソ

編者=監督 監修：シルヴィア・エヴァンジェリスティ

内容 セザンヌと同様に静物画を数多く描いたジョルジョ・モランディは生涯のほとんどもボローニャで過ごした。自らのアトリエの中にある静物や、彼のアトリエの窓から見える風景、彼が毎夏訪れたエミリア地方の風景を描いた。モランディは単なる写実でなく、写実の本質を描き出し、画面には彼独特の詩情が溢れている。

解説 本編はジョルジョ・モランディ（1890-1964）の生誕100周年を記念して、彼がアトリエを構えたボローニャ市の近代美術館で開催された展覧会の記録である。それは、ヨーロッパ最古の大学が開かれ、イタリアで一番知的な街と言われるボローニャが20世紀の巨匠に捧げた展覧会である。

上映時間 20分

入力日 2015/02/22

DVD No 57

タイトル Alberto Sotio: la croce dipinta del 1187 アルベルト・ソーテ
オ：1187年制作の十字架

ジャンル ドキュメンタリー

制作年 1991年

作者=発案者

編者=監督

内容 本編は1187年に描かれたアルベルト・ソーテオの十字架の修復計画について紹介する。

解説 内容に加え映像と音の完成度が実に低く、この短いドキュメンタリーは鑑賞に値しない。

上映時間 15分

入力日 2015/02/22

DVD No 58

タイトル Il Gottardo dell'Umbria ウンブリアのゴッタルド

内容 本編は古い鉄道のスボレートからノルチャまでの線路の修復計画を紹介する。

ジャンル ドキュメンタリー

制作年 1990年

作者=発案者

編者=監督

解説 内容に加え映像と音の完成度が実に低く、この短いドキュメンタリーは鑑賞に値しない。

上映時間 14分

入力日 2015/02/22

DVD No 59

タイトル Il Duomo di Orvieto オルヴィエート大聖堂

内容 本編はオルヴィエート大聖堂のフレスコ画とガラス窓の修復計画を紹介したものである。

ジャンル ドキュメンタリー

制作年 1999年

作者=発案者

編者=監督

解説 内容に加え映像と音の完成度が実に低く、この短いドキュメンタリーは鑑賞に値しない。

上映時間 20分

入力日 2015/02/22

DVD No 60

タイトル I segni dell'uomo 男の印

内容 ヴァルネリーナの羊農場、農業、動物を紹介する。

ジャンル ドキュメンタリー

制作年 1992年

作者=発案者

編者=監督

解説 内容に加え映像と音の完成度が実に低く、この短いドキュメンタリーは鑑賞に値しない。

上映時間 18分

入力日 2015/02/22

DVD No 61

タイトル La roccia che vive 生きている岩

内容 本編はチェレート自然を紹介する。

ジャンル ドキュメンタリー

制作年 1992年

作者=発案者

編者=監督

解説 内容に加え映像と音の完成度が実に低く、この短いドキュメンタリーは鑑賞に値しない。

上映時間 20分

入力日 2015/02/22

DVD No 62

タイトル Giotto ジョット

ジャンル 美術史

制作年 1974年

作者=発案者 監督 アントニオ・モレッティ

編者=監督 台本 フェルディナンド・ボローニャ

上映時間 55分

入力日 2015/02/22

内容 本編は14世紀（トレチェント）イタリアにおける画家の最高峰であるジョット（1267? - 1337）の生涯と芸術上の経歴の重要な時期を扱う。画家が活動した社会、文化、芸術の状況、所謂「工房」と弟子たちがいかに彼の作品に関わったか、加えてフレスコ画の技法について説くと共に、アッシジのサン・フランチェスコ聖堂上院フレスコ画、パドヴァのスクロヴェーニ礼拝堂装飾、フィレンツェのサンタ・クロチエ聖堂フレスコ画、サン・フランチェスコ聖堂下院の数点のフレスコ画、板絵作品などジョットの全ての作品を扱う。

解説 ジョットの作品に関する優れたドキュメンタリーである。もちろん技術的な制約はあるが、肉眼では見えにくい高い位置の壁画なども至近距離から撮影されており、興味深いドキュメンタリーに仕上がっている。惜しむらくは、気負い過ぎた音楽が時々鑑賞を妨げる。

DVD No 63

タイトル La pittura senese del Trecento 14世紀（トレチェント）のシエナ絵画

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 ルーカ・ヴェルドーネ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 13世紀末から14世紀半ばのシエナでは、西洋史上最も豊かで重要な画派の一つが花開いた。その原動力は、街の守護聖人である聖母マリアへの礼拝と商業・経済上の繁栄であった。最初に現れたのはドゥッチョ・ディ・ブオニンセーニャ（1255ca. - 1318/19）であり、彼の手になる《荘厳の聖母》は特に著名である。次いで、おそらくドゥッチョの弟子であったシモーネ・マルティエーニ（1284ca. - 1344）がバラツツォ・ブップリコの《荘厳の聖母》に見られるように同様のテーマを発展させた。シエナにまで及んだジョットの教えは、ピエトロ（1280/ 85 ca. - 1348?）とアンブロージョ（1285 - 1348?）のロレンツェッティ兄弟に独特な解釈者を見出す。しかし、ロレンツェッティ兄弟をも巻き込み、新大聖堂の素晴らしい計画を未完に終わらせた1348年の過酷なペストの後、シエナ画派は多くの画家達によって引き継がれたものの、彼らがそれ以前の作家達の高みに達することはなかった。

解説 本編は、ゴシック様式から国際ゴシック様式に至る時期にヨーロッパの中でも一つの極みに達したシエナの画派に関する優れた解説である。その当時の研究成果に基づき、ドゥッチョ・ディ・ブオニンセーニャから14世紀の画家たちまでの作品を美術史上にしっかりと位置づけている。特に、アヴィニョンに移された教皇庁で活躍し、国際ゴシック様式の基を作り上げたシモーネ・マルティエーニの事績については、詳しく述べられている。ナレーションは非常にわかりやすく、歴史的背景にも理解が及ぶよう解説されている。しかしながら、唯一の欠点は映像の質が悪く、今となっては古めかしく見えてしまうことである。

DVD No 64

タイトル Piero della Francesca ピエロ・デラ・フランチェスカ

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 ジュリアーノ・ベトレッリ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 30分

入力日 2015/02/22

内容 本編は、画家ピエロ・デラ・フランチェスカ（1415/20・1492）の生まれた街であるサンセポルクロとそこにある二つの作品、すなわち青年期から円熟期まで長いこと掛けて描かれた《慈悲の聖母》、および街の偉大な芸術的濃密を示す《キリストの復活》で幕を開ける。その後、彼の生涯の概要が語られ、形態上のタイプについて説明がなされ、ピエロの活動の中核をなすアレツォ、サン・フランチェスコ聖堂の壁画サイクルが続く。ヤコブス・デ・ウォラギネの『聖十字架伝説』に発想を得たこのサイクルに関して、イコノロジーと様式の面から解釈がなされる。その後、彼の円熟期の数年、つまりウルビーノのフェデリーコ公爵との関係、およびウッフィーツィ美術館収蔵の二連祭壇画と《キリストの鞭打ち》の複雑な物語、そして《セネガリアの聖母》の诗情溢れる親密感について語られる。最後に話はサンセポルクロに戻り、画家の老年期と失明、そしてアメリカが発見されたのと同じ1492年10月12日に起こった彼の死で本編を閉じる。

解説 作品を至近距離から詳細に追うカメラワークが臨場感を見るものに与え、じっくりとした作品鑑賞を可能にする。特にアレツォ、サン・フランチェスコ聖堂のフレスコ画サイクル『聖十字架伝説』がヤコブス・デ・ウォラギネの著作に基づき、場面ごとに丁寧に解説される。後ろに流れるナレーションの解説は具体的でわかりやすく、作品の理解を大いに助けてくれる。また、ウルビーノ公モンテフェルトロの下で活躍した時代の作品に関しても、マルケ地方のこの美しい街とその公爵邸を余すところなく見せ、鑑賞者の理解を助けている。本編は現在でも鑑賞に値するピエロ・デラ・フランチェスカに関する優れたモノグラフである。

DVD No 65

タイトル Masaccio La nascita dell'arte nuova マザッチョ、新しい芸術の誕生

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 グイド・グェルラージオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 本編は、15世紀（クワットロチェント）に新しい芸術の誕生に誰よりも貢献した画家マザッチョ（1401-1428）の、短くも濃密な様式展開を余すところなく示す。人文主義者たちの言説やブルネッレスキ、ドナテッロらの遠近法の革新的発明に刺激を受けた彼の芸術は、最初の重要な作品である《サン・ジョヴェナーレの三連祭壇画》から《ウッフィーツィの聖母》《ピサの二連祭壇画》まで、またフィレンツェ、ブランカッチ礼拝堂のフレスコ画の傑作からサンタ・マリア・ノヴェッラ聖堂の素晴らしい《聖三位一体》に至るまで、技術の上で革新的で魅力あるだけでなく、人間とその環境の自立に根本的に根差した一つの絵画の頂点に到達している。ブルネッレスキとドナテッロに続くイタリア・ルネサンス芸術の第3番目の偉大な革新者がマザッチョである。

解説 その誕生から天逝によって断ち切られた短い生涯の中でマザッチョが残した作品を、時系列的に踏付けていく。ハイ・ヴィジョン映像に慣れた我々の眼には本編の画質は鮮明に映らないとしても、作品をなめるように見せるカメラワークと丁寧な解説は、本編をマザッチョに関する優れたモノグラフとしている。

DVD No 66

タイトル Domenico Beccafumi ドメニコ・ベッカファーミ

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 トンマーゾ・ダッツィ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ドメニコ・メカリーノ、通称ベッカファーミ（1486 - 1551）は1486年頃シエナに生まれ、そこで1551年死んだ。このトスカーナの街からほとんど離れることがなかったこの画家は、ベルギーノからラッファエッロ、ミケランジェロに至る古典主義的文化に影響を受けたが、自らの育った自然から受けた偉大な教えを忘れることは決してなかった。色彩画家として偉大な才能を持ち、「南イタリアのコルレッジョ」と呼ばれたソドマと競って活動を行なったベッカファーミのマニエリスムは、傑作の中に登場する人物たちにはしばしば幻想的な魅力を与える傾向にある。

解説 ベッカファーミが描いた田園風景を現在の映像で見せる導入部は印象的である。1500年代の風景が今だにシエナ近郊に残っていることは驚きに値する。通常は肉眼で見づらい壁画上部などを至近距離から撮影し、じっくり見せてくれるのはありがたい。

DVD No 67

タイトル Lorenzo Lotto e gli spiriti inquieti ロレンツォ・ロットと不安な精神

ジャンル 美術史

制作年 1990年

作者=発案者 監督 グイド・グエルラージオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 このドキュメンタリーは、偉大なヴェネツィア人画家ロレンツォ・ロット（1480-1556）の作品を彼の生きた環境と精神土壌と共に示す。貧困と放浪の中に身を置きつつも、異端審問や熾滅の予見に揺さぶられた時代の宗教的不安に非常に敏感であった画家は、大いなる色彩的魅力と物語叙述の革新を内包する様式で明確に信仰に裏打ちされた絵を描くことでそれに対抗した。本編で紹介・分析される傑作はそのことを証明している。以前はほとんど顧みられることがなかった祭壇画やフレスコ画、肖像画は、最近の批評によって16世紀（チンクエチェント）の大巨匠たちの高みに達すると認められている。

解説 ロレンツォ・ロットというこの魅力溢れる画家の画業を、15世紀ヴェネツィアに棹さず初期から印象派を予感させる絶筆作品まで、余すところなく紹介する。画質に問題はあるものの、当時の撮影技術の粋を集め、研究成果に基づいて作成された本編は、現在でも鑑賞に値するロットの入門ビデオである。

DVD No 68

タイトル Tiziano ティツィアーノ

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 マヌエラ・ブルザケーキ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 1490年頃にピエーヴェ・ディ・カドーレで生まれたティツィアーノ・ヴェ
チェッリオ (1490ca.・1576) はヴェネト文化黄金期の中心的画家である。そ
れと同時に彼はルネサンスの偉大な代表者でもあった。ジョルジョーネに代表
される新しい時代の自然さからティツィアーノは貴重な教えを受け取るが、彼
の芸術は古典的芸術、すなわちミケランジェロの偉大さやラッファエッロの甘
美なる完璧を反映し、如何なる職人をも凌駕する構図に色彩を散りばめてい
る。この芸術家は王侯貴族や皇帝、ローマ教皇たちのために仕事をし、栄光と
名誉に満ちた長く多産な生涯を送った。1576年にヴェネツィアで没した。

解説 ドキュメンタリーは、夕暮れの大運河を背景に1576年のベストとそれによって
没したティツィアーノが最後まで手を加えていた《ピエタ》(ヴェネツィア、
アカデミア美術館所蔵)から話を始める。そして、自分を常に実年齢より年
上に見せようとした画家の出生地ピエーヴェ・ディ・カドーレに話は戻り、次
いでジョヴァンニ・ペッリニの工房で兄弟子ジョルジョーネと過ごした時期
について語られる。同シリーズのビデオと異なり、ティツィアーノの作品だ
けでなく、ヴェネツィアやピエーヴェの風景を差し挟むことで、画家の生きた
時代を鮮明に浮き上がらせようとする。また、中期の傑作である《ダナエ》
(ナポリ、カポディモンテ美術館所蔵)に対して年上のミケランジェロが加え
た批判を紹介することも時代の息遣いを伝える。それは、彼の残した数多くの
貴顕の肖像画を通じても理解できる。最後にティントレットやヴェロネーゼと
いう次の世代の挑戦を受ける。
ティツィアーノの生涯を余すところなく解説したドキュメンタリーである。

DVD No 69

タイトル Giulio Romano ジュリオ・ロマーノ

ジャンル 美術史

制作年 1991分

作者=発案者 監督 グイド・ゲルラージオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ジュリオ・ピッピ、通称ジュリオ・ロマーノ (1499・1546) は1499年ローマ
に生まれ、1546年マントヴァで没した。ラッファエッロの高弟であり、また美
術において初の16世紀の「監督」でもあった。実際、建築や装飾、そして当然
のことながら絵画に対する彼の好みは、16世紀の宮廷で要求されていたような
劇場的スペクタクルにそれらを構成させるのである。

解説 本編も「ティツィアーノ」と同様、画家の作品ばかりでなく彼の生きた街の映
像を差し挟むことで時代の動きを伝えようとする。ローマ生まれの(ローマ
ノ)ジュリオと呼ばれたピッピはラッファエッロの工房で頭角を現し、マント
ヴァ公爵フェデリコ・ゴンザーガに招聘され、宮廷画家として公爵邸とテ宮
殿に多くの壁画を描いた。天井画を含むこれらのフレスコ画は通常の写真では
理解が難しく、その配置や連続を余すところなく見せてくれる本編は貴重なド
キュメンタリーである。

DVD No 70

タイトル Leonardo (1452 - 1519) e la sua cerchia レオナルドとその周辺

ジャンル 美術史

制作年 1978年

作者=発案者 監督 ステーファノ・ロンコロニー

編者=監督 監修 ジュリオ・カルロ・アルガン

内容 本編は確実にレオナルド・ダ・ヴィンチ (1452・1519) の作品とされるものを明らかにすることを目的とする。それらの作品はルネサンスの作品の持つ芸術的・技術的原則の真の展開を表現しているからである。帰属の不確実な作品には触れず、偉大な巨匠の作品に集中するが、それはレオナルドの技術の解明や、その哲学的思想の理解に到達しようとするためである。

上映時間 58分

解説 当時までの研究成果に基づいてレオナルドの確実な作品のみを扱っている点で本編は非常に興味深い。余りに良くない映像の画質が鑑賞者の意欲をそぐ。それでも、ヴェネツィア共和国に招聘された師のアンドレア・デル・ヴェルロッキオがサンティ・ジョヴァンニ・エ・パオロ広場に設計した《バルトロメオ・コッレオーニ騎馬像》(鑄造はアレッサンドロ・レオバルディ)へのレオナルドの参画や後ろ足で立つ《トリヴルツィオ騎馬像》の発案、著名な《最後の晩餐》(ミラノ、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院食堂)の分析、および数々のデッサンに残された「醜さ」への着目など、興味深い話題を取り上げている。また、ミラノで形成されたレオナルド派の画家たちについても述べるが、彼らが師の作品の持つ深みと不安を表すヴェルヴェルに至らなかったと結論する。次いで、彼の影響がラファエッロやアンドレア・デル・サルト、ヴェネツィア画派のジョヴァンニ・ペッリーニやティツィアーノ、ひいてはカラヴァッジョにまで見られることを論証する。

入力日 2015/02/22

DVD No 71

タイトル Federico Barocci: Il tramonto del Rinascimento フェデリコ・バロッチ:ルネサンスの日没

ジャンル 美術史

制作年 1990年

作者=発案者 監督 ファウスト・デローリオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

内容 フェデリコ・バロッチ(ウルビーノ、1535-1612) 本編は、有名なローマ短期滞在後に故郷ウルビーノに戻った偉大なイタリア画家に捧げられたものである。当時のウルビーノは社会経済的に地方都市の規模に達していたものの、文化的にはまだ成熟してはなかった。カトリック対抗宗教改革の絶頂期は、バロッチの沈黙の瞑想のお陰で絵画を通して社会構成(都市と近郊の無限の教会のbiblia pauperum)に決定的な貢献をなすあの「愛情の詩情」によって実際に最高潮を迎える。

上映時間 27分

解説 ヴァティカン宮殿内教皇ピオ4世の小屋の天井装飾に関わった後、故郷のウルビーノに戻って終生活動したバロッチの画業を、作品ばかりでなく活躍した街をも見せることで理解を深めようとする。彼が次の時代のポローニャ派の画家たちやカラヴァッジョらに道を開いたことを指摘する。ただ、映像の画質はかなり望むべきものがある。

入力日 2015/02/22

DVD No 72

タイトル La grande maniera: Bramante – Raffaello – Giulio Romano
偉大なるマニエラ：ブラマンテ、ラッファエロ、ジュリオ・ロマーノ

ジャンル 美術史

制作年 1975年

作者=発案者 台本・監督 アントニオ・ペトルッチ

編者=監督 監修 D. レーディグ・デ・カンボス

上映時間 55分

入力日 2015/02/22

内容 本編はラッファエロの歴史上、芸術上のプロフィールを示し、イタリア美術の古典主義的時代におけるこの芸術家の重要性を強調する。加えて、ジュリオ・ロマーノの《コンスタンティヌスの間》、ブラマンテの重要な作品に関して語る。

解説 このビデオは、偉大な芸術都市ウルビーノから生まれたブラマンテ、ラッファエロ、ジュリオ・ロマーノという一つの芸術の流れを歴史的視点から追っている点で大局的で分かりやすい。その反面掘り下げが不十分な作品も散見される。しかし、重要な意義を持つ作品、例えばヴァチカン宮殿にラッファエロが制作した《署名の間》や《ヘリオドロスの間》などについては詳しい解説が加えられている。

DVD No 73

タイトル Il Manierismo a Roma ed in Emilia ローマとエミリア地方のマニエリスム

ジャンル 美術史

制作年 1989年

作者=発案者 監督 トンマーゾ・ダッツィ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴェア

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 マニエリスムは社会・宗教的危機と時期を一にする。1527年のローマ劫奪、1530年のフィレンツェ攻囲、対抗宗教改革の出現、これらは芸術家の心の中に決定的な喪失感を与える要因である。その喪失感とは、特にミケランジェロ、レオナルド、ラッファエロが到達した偉大さを超えることができないという考えに由来し、模範と判断された彼らはロッソ・フィオレンティーノ、ポントルモ、ベッカファミヤその他「マニエラ」、つまり図像表現の独特な方法を持つ画家達に決定的な影響を与えたのである。

解説 政治的・宗教的危機の時代である16世紀に出現したマニエリスム芸術を歴史的文脈に着実に位置づけながら、多くの作家達の作品を紹介する。現在1506年の制作と考えられているミケランジェロ作《ドーナ家の丸板絵》（フィレンツェ、ウッフィーツィ美術館収蔵）に既に見られる、仮想上の軸を中心として回転する螺旋状の人体、所謂「フィグーラ・セルペンティナータ（蛇状曲線）」がマニエリスム、およびそれに続くバロック美術の基本的要素となることを正当に指摘した後に、盛期ルネサンスの他の主人公レオナルドやラッファエロについて述べる。彼らの様式を模範として成立したジュリオ・ロマーノやコルレージョらの作品を数多く解説する。

DVD No 74

タイトル *Il Manierismo in Toscana* トスカナにおけるマニエリスム

ジャンル 美術史

制作年 1989年

作者=発案者 監督 トンマーゾ・ダッツィ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オーヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ミケランジェロ、レオナルド、ラッファエッロの芸術はマニエリスムの誕生と発展にとって決定的といえるであろう。ミケランジェロはその作品の中で人物の倫理的偉大さを、厳粛な身振りとポーズの雄弁さを通じて表現した。その様式からマニエリスムが選択したいくつかの道を開くことになる変形とグロテスクな効果のための嗜好が生まれ出る。

マニエリスムの芸術家たちは、レオナルドからメランコリックな性向や、顔・身振りを照らし出す外から入り込む光を取り入れ、キアロスクーロと画面の雰囲気を作り裂く閃光の効果を生み出した。

ラッファエッロは演劇の舞台装置のような構図や空間処理に影響を与えた。それは人物の傾きや古典的建築、そして衣紋や人体を切り裂く光によって構成されるのである。

解説 ミケランジェロやレオナルド、ラッファエッロなど盛期ルネサンスの巨匠たちを模範として、次の世代の作家達がどのように芸術を推し進めていったのかを具体例に基いてわかりやすく解説している。シエナ派の最後の巨匠ソドマ、公国、次いで大公国となったフィレンツェのメディチ家宮廷で活躍したブロンツィーノらの作品を取り上げて、それがミケランジェロらの作品のどこに由来するのかが示される。

DVD No 75

タイトル *Veneto tra acqua e terra* ヴェネト地方、水と大地の狭間で

ジャンル 文化史

制作年 1990年

作者=発案者 発案 チェーザレ・デ・ミケーリス教授（ヴェネト地方のマニエリスム）

編者=監督 監督 マリーナ・カッチョ

上映時間 25分

入力日 2015/02/22

内容 ヴェネツィアを中心とするヴェネト地方は18世紀末まで「いとも晴朗なる共和国」と呼ばれたヴェネツィア共和国の領土であった。本編は、ヴェネツィアの有名な出版社の一つマルシーリオ社の主幹を勤めるチェーザレ・デ・ミケーリス教授のガイドで、この地方を「自然」「社会」「場所」に分けて紹介するものである。その中でヴェネツィアはもちろんのこと、パドヴァ、ヴィチエンツァ、ヴェローナ、トレヴィーゾなどの街を紹介する。（後半はRAIのテレビ放送の歴史を紹介する）

解説 ヴェネト地方は魅力に溢れる地域であるが、それを分かりやすく紹介している興味深いドキュメンタリーである（後半は価値の低いビデオである）。

DVD No 76

タイトル Guido Reni グイド・レーニ

ジャンル 美術史

制作年 1988年

作者=発案者 監督 ファウスト・ダローリオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 グイド・レーニは1575年音楽家の息子としてボローニャに生まれ、1642年に没した。彼は魔法のように繊細な色彩で描かれた理想的な美しさを作品に追究した折衷的画家であった。本編は、主なフレスコ画作品や重要なタブロー画を扱うことで画家の人生を追うことを目指す。

解説 画家の生涯と作品を丁寧に追っている。通常は見られない素描なども加えながら、壁画作品を時代順に見せてくれる。ボローニャにおいてカルラッチ兄弟に影響を受けた初期から、ローマでの活躍までをしっかりと説明している。所々に映像の乱れがあるが、17世紀前半に最も人気のある画家の一人であったグイド・レーニの芸術活動を余すところなく示しているといえる。

DVD No 77

タイトル Natura e storia nell'età di Correggio e dei Carracci コルレ
ジョとカルラッチ兄弟の時代における自然と歴史

ジャンル 美術史

制作年 1990年

作者=発案者 監督 ファウスト・ダローリオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ボー川平原の、そしてコルレージョの個人的ルネサンスの「沈黙の」次元から出発して、カルラッチ兄弟の改革を貫く自然主義は、1550年頃に遠い起源を持つことが明らかである。それはバルミジャーノ、ドツツ・ドッシやニコロ・デッラバーテらのマニエリスムを通じて浸透し、新たな真実を見出す対抗宗教改革へと至る。教会組織、魔術から遠のいた科学、新たな時空への確信といったものは、新しい絵画の特徴である。アゴスティエーノ、ルドヴィーコ、アンニーバレのカルラッチ兄弟はその青年期から2本の線に沿って動く。第1のラインは、ローマでのアンニーバレの活躍からアルドヴランディのルネッタ作品（ドメニキーノ、アルバーニとの共作）を通じて古典的風景画となる。そして第2のラインはもっと近くのボー川平原で、ルドヴィーコ・カルラッチに強い影響を与えた地域である。彼の大型の祭壇画では親密で偉大ではあるが、楽観的でも雄弁でも教訓的でもないバロックが表現される。それはグイド・レーニを通じてジュゼッペ・マリア・クレスピ、そして18世紀の視覚的自然主義へと至るのである。

解説 コルレージョはラッファエッロの芸術を基盤として出発するが、《サン・ジョヴァンニ礼拝堂天井画》には既にバロック美術の先駆が認められる。バルミジャーノの作品も通常は見られない天井画・壁画の細部にまでカメラが入り、その芸術を明らかにする。またドツツ・ドッシの作品にはミケランジェロの筋肉表現の強い影響を見る。またカルラッチ兄弟はローマのラッファエッロ芸術を基礎とし、古典主義的な流れを決定付けた。これらエミリア・ローマ地方の画家たちの芸術形成をわかりやすく解説している。

DVD No 78

タイトル Guercino グェルチーノ

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 ジョルジア・デ・ネーグリ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ジョヴァンニ・フランチェスコ・バルビエーリ、通称イル・グェルチーノ（1591・1666）は1591年フェルラーラ近郊のチェントに生まれ、1666年没した。芸術においては彼はヴェネト地方やローニャの画家、そしてカラヴァッジオに影響を受けた。一次資料は才能に富み、落ち着いた彼の性格について多くを語る。彼の手紙を読むと、優雅で深い言葉遣いから文化的な判断力はあったと考えられるが、理論書を著すほどの野心は持ちあわせていなかったため、芸術に関する彼の考えや理想を伝える文章はほとんど残されていない。美の神秘を探ろうとして新しい音楽を学び、絵を描く前に長く瞑想したドメニッキョの理論上の厳格さや、自らの理想とする世界に閉じ籠もり、経済的困窮の中でヒステリーに陥り、それが昇じて死に至ったグイド・レーニの苦勞に満ちた人生に比べると、グェルチーノは画家という職業を信じて明白な楽観主義と情熱を以て仕事に邁進した実践家であったようにみえる。フレスコ画作成にあたってはカルトーネを準備せず、古代美術をも学ばず、ヴェネト風に本能に基いて描いた。グェルチーノは、マニエリスムの生み出した象徴に満ちた図像を避け、急激な図像的革新を嫌った。つまり、何が何でも新しいことを行おうとすることに魅力を感じず、例えばヴェローナやトリノの《聖フランチェスコ》や《ローマの聖フランチェスカ》に見られるように同じ主題のヴァリエーションとして全く同じ構図を描いたと言える。

解説 教皇領で第二の都市であったボローニャ、公爵領として栄えたフェルラーラの風景から本編は始まる。ヴェネツィア美術の伝統を受け継ぎ、1621年以降はローマに招聘されて古典主義的な芸術を身に付ける。同時代の様々な絵画の流れを一身に汲む画家としてのグェルチーノを良く示している。音質も画質も制作当時としては良好で、鑑賞に値する。

DVD No 79

タイトル Giuseppe Maria Crespi: la natura, il corpo e il sentimento
ジュゼッペ・マリアー・クレスピ：自然、人体と感情

ジャンル 美術史

制作年 1991年

作者=発案者 監督 ファウスト・ダローリオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ジュゼッペ・マリアー・クレスピ、通称スパニョーロ（スペイン人）は1665年3月26日にボローニャに生まれた。カヌーティとカルロ・チニャーニの工房で修行を積み、ヴェネツィア滞り後、ボローニャに居を構えて幾多の作品を制作した。ペポリ・カンボグランデ邸の2つの部屋にフレスコ画で《神々の饗宴》と《時間の馬車で曳かれるヘラクレス》を描いた。1747年7月16日ボローニャで没す。

解説 ジュゼッペ・マリアー・クレスピに関するモノグラフは比較的少ない。その意味で本編は希少価値がある。

DVD No 80

タイトル Canaletto, Ceruti e il mondo nuovo カナレット、チェル
ティと新しい世界

ジャンル 美術史

制作年 1988年

作者=発案者 監督 グイド・ゲルラージオ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 本編は「光の世紀」の進歩的部分を予告・予告するものであり、18世紀の歴史
的、批判的、詩的総体を忘れることなく、カナレット、チェルティ、ロン
ギ、クレスピ、フラ・ガルガーリオ、マニヤスコら広くヨーロッパで活躍した
画家たちに光を当てる。

ジョルジョ・マスケルバが発案し、グイド・ゲルラージオが起草・監督した
このドキュメンタリーは、図像を通じて来る世紀の実像やその素晴らしい新し
さを掘り起こし、視覚的場から幻影主義へ、階級を超えた人間的・社会的理
解、近代への序曲へとつながっていく。

解説 写真が発明される前の時代に、現実をあるがままに描き、そこに民衆の生活や
それに差し込む光を描き出した数人の作家達に焦点を合わせたドキュメンタ
リーである。所謂「ヴェドゥータ」に表現されたヴェネツィアの風景には、現
実を直視しようとする態度が明白に現れるが、それが「カブリッチョ」と呼ぶ
一種の幻想画にも通奏低音のように響いている。崩壊前の成熟したヴェネツィ
ア共和国の文化を、カルロ・ゴルドーニなどの演劇・文学にも言及しながら解
説している。あまり名の知られていない肖像画家フラ・ガルガーリオも、この
文脈の中に見事に位置付けられる。

DVD No 81

タイトル Il Settecento in Italia, il Tiepolo, il Barocchetto e le corti イ
タリアの18世紀、ティエーポロ、バロケットと宮廷

ジャンル 美術史

制作年 1988年

作者=発案者 監督 ヴィットーリオ・アルメンターノ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 ジョルジョ・マスケルバが発案し、ヴィットーリオ・アルメンターノが監督し
た本編は、18世紀の美術に最も典型的に結び付いた「性格」、すなわち精神的
な聡明さに繋がる建築、宮廷、美術そのものの持つ豪奢で極端な華やかさと全
く新しい危険や発見を求める趣味との混淆を強調しようとする試みである。

その世紀のイタリアにおける議論の余地のない芸術家といえば、絵画ではジャン
バッティスタ・ティエーポロであるが、最も才能に溢れ、形態と都市計画の
分野で共に理性的な革新者であったのは、シチリア人フィリッポ・ユヴァルタ
である。彼はサヴォイア家の建築家・都市計画者であり、ストゥビネージ、ヤ
スーベルガ、トリノで活躍した。

解説 「バロケット」とは、「バロック」から派生した建築用語で、建物の内側全
体に手の込んだ装飾を施す建築装飾を指す。ヨーロッパ宮廷で引く手数多だっ
たティエーポロ親子の活躍を、個々の宮殿の装飾を至近距離から撮影すること
によって解説する本編は、希少価値のあるドキュメンタリーである。

DVD No 82

タイトル Futurismo dal 1908 al 1918 未来派 1908年から1918年まで

ジャンル 美術史

制作年 1974年

作者=発案者 監督 ヴィットーリオ・アルメンターノ

編者=監督 監修 グイド・パッロ ルチアーノ・デ・マリア

上映時間 55分

入力日 2015/02/22

内容 未来派は20世紀のイタリアの文化的生活に刺激を与えた最も複雑で、最も議論の多い運動である。本編は、この運動が起こった社会・文化的側面を、特に表象芸術に光を当てて示すものである。

解説 20世紀初頭のミラノは、産業革命の成果が市民生活に深く入り込み、物質文明の勝利（それが一時的であるにしろ）が明白になると共に、それまでの象徴主義的な文化が終焉を告げる時代であった。その中で生まれた1909年2月20日の「未来派宣言」に連なる画家・彫刻家たちの活動を、当時の言説や映像を交えて詳細に解説した優れたドキュメンタリーである。

DVD No 83

タイトル Umberto Boccioni, Antonio Sant'Elia ウンベルト・ボッチョーニとアントニオ・サンテリア

ジャンル 美術史

制作年 1974年

作者=発案者 監督 ヴィットーリオ・アルメンターノ

編者=監督 企画 エンリーコ・メロナーリ

上映時間 25分

入力日 2015/02/22

内容 ボッチョーニは、1909年の未来派宣言に署名をした5人の画家の中では確かに最も重要な人物である。本編は、近代の絵画運動に、特に海外で強い影響を与えたこの特異で創意工夫に満ちたこの作家の作品を扱う。未来派運動の絵の中で特にサンテリアにとって、建築が著しい重要性を持った。彼は未来派的な素描で同時代の建築を大部分見越して描いている。このドキュメンタリーの目的は、1916年カルソの戦いで不幸にも早世したこの建築家の作品を明らかにすることにある。

解説 本編は、ボッチョーニとサンテリアの作品を数多く見せながら解説を加えることにより、未来派の二人の中心的人物を解説する。多くの作品が見られる点は興味深いが、映像の質があまり高くない上、必ずしも映像に合っているとは言いがたいバックミュージックが少々耳障りである。

DVD No 84

タイトル Morandi モランディ

ジャンル 美術史

制作年 1990年

作者=発案者 監督 フレデリック・ロシフ

編者=監督 テキスト レンツォ・レンツィ

内容 「マドリッドに死す」「野生の祭」などの著名な映画の監督であるフレデリック・ロシフは、20世紀の最も偉大な3人の画家に捧げた理想的な三部作の中で「ブラック」「ピカソ」に次いで「モランディ」を、我がルーチェ社のために撮影した。

セザンヌとプロヴァンスの関係にも比することのできるジョルジョ・モランディと彼の街の緊密な関係は、画家が20世紀初頭から1964年6月の死に至るまで常にボローニャに留まり、矛盾に満ちた激動の時代を過ごしたことを考えると、一層重要なことに思われる。そこで彼は自らの主題に数限りない変奏を加えて描き、「異なる」時代の次元を生きたのである。その時代は、模倣できない傑作の数々を通してのみ示すことのできる「深い時代」なのである。モランディの生涯に見られるこの二重線を明白にするため、本編は非常に珍しい資料を用い、画家とその姉妹に関して撮影されたこの世に数少ない映像を用いている。

解説 本編は、モランディの生涯を詳細に解説する興味深いドキュメンタリーである。

上映時間 50分

入力日 2015/02/22

DVD No 85

タイトル Da Simone Martini ai Lorenzetti シモーネ・マルティエーニからロレンツェッティ兄弟へ

ジャンル 美術史

制作年 1993年

作者=発案者 監督 フランチェスコ・アショーネ

編者=監督 監修：ジョルジョ・マスケルバ アキッレ・ボニート・オリヴァ
アンドレア・エミリアーニ

内容 シエナ市は、シモーネ・マルティエーニとピエトロ、アンブロジーオのロレンツェッティ兄弟の「堂々たる」絵画にその活動の場を与えた。彼らはドゥッチョ・ディ・ブオンセーニャの後の時代に育ち、14世紀前半の中部イタリアを国の中で第二の文化・美術上の中心地に押し上げた。

解説 シエナ共和国は、1260年モンタルティの戦いでライヴアルのフィレンツェ共和国を破って以降、聖母の庇護の下、繁栄を謳歌した。本編は、その繁栄の頂点で活躍したシモーネ・マルティエーニやロレンツェッティ兄弟の活動の足跡を、作品の精査だけに留まらず街の景観なども交えながら分かりやすく解説している。画像は輪郭が曖昧で少々質に難があるものの、鑑賞に値するドキュメンタリーである。

上映時間 25分

入力日 2015/02/22

DVD No 86

タイトル *Boticelli, il suo tempo, i suoi amici artisti* ボッティチェッリ、その時代と友人の芸術家たち

ジャンル 美術史

制作年 1994年

作者=発案者 監督 グイド・アラータ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリーヴァ

上映時間 29分

入力日 2015/02/22

内容 本編は、ボッティチェッリとその著名な2人の弟子たち、すなわちアンドレア・デル・ヴェルロッキオとアンドレア・デル・カスターニョ、パオロ・ウッチェッロの生涯を明らかにする。彼ら3人は「ルネサンス期」の中心的作家だと考えられているからである。トスカーナ地方の小さな街で過ごした幼年期から青年期まで、そして当時のフィレンツェの「工房」での最初の修行まで、彼らの私生活を追う。自らの活動を探ることで、これまでにないほど豊かに一時代に華を添え、強調したドキュメンタリーである。

解説 渾名であるボッティチェリやヴェルロッキオ、カスターニョの名前の由来から脱き起こし、作品ごとに詳しい説明を加えながら彼らの生涯を追う。時折画像に難があるものの、非常に良くできたドキュメンタリーである。

DVD No 87

タイトル *L'Ottocento napoletano* ナポリの19世紀

ジャンル 美術史

制作年 1994年

作者=発案者 監督：アントニオ・モレッティ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリーヴァ

上映時間 29分

入力日 2015/02/22

内容 ブルボン家のフェルディナンド4世、両シチリア王国の崩壊と統一イタリア王国の成立は、イタリア南部の19世紀を特徴付ける重要なできごとである。しかしながら、これらのできごとは同時代の絵画にはほとんど跡を残しておらず、むしろそこにはナポリの自然や建築物の美しさ、田舎の風景が描かれており、それはG.ズマルジャッシ、S.フレゴラ、ジャチント・ジガンテらを代表とする「ボジッリボ画派」や、M.デ・グレゴリーオ、S.デ・ニッティス、F.ロッサーノ、F.P.ミケッティとA.マンチーニらの「松脂画派」らの革新的絵画運動に刺激を与えたのである。

解説 日本ではほとんど知られていないが、天才画家ドメニコ・モレッリを擁した19世紀のナポリは、マッキアイオーリの活躍したフィレンツェと並んで、1861年の統一後のイタリア王国の美術の中心地の一つであった。ナポリ・シチリア両王国の首都から新生王国の一地方都市に転落する中で、ナポリは経済的には停滞し活力を失っていった。その中でも、多くの優れた芸術家を生み出したナポリは芸術・文化の中心地としての地位を失わなかった。そのことを良く示してくれるのが本ドキュメンタリーである。

DVD No 88

タイトル I Macchiaioli e il loro tempo マッキアイオーリとその時代

ジャンル 美術史

制作年 1994年

作者=発案者 監督 ジゼッラ・バガーノ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 29分

入力日 2015/02/22

内容 マッキアイオーリは19世紀のヨーロッパ絵画の歴史において第一義的な地位を占める。

1856年は「マッキア（染み）の生まれた年」と考えられる。本編は、ファットーリ、レーガ、アッパーティ、コスタ、シニョリーニ、チェチョーニや理論家と考えられたディエゴ・マルテッリら、この運動を進めた偉大な作家達のうちの何人かを扱う。

様々な人を演じる役者たちの助けで、この運動がロマン主義、新古典主義など同時代の他の画派から受けた関係、反響、敵意などが生き活きと描かれる。チェチョーニが「記憶」を辿って水彩画で描いたように、この運動の推進者たちはラルガ通りのカフェ・ミケランジェロに集まった。彼らこそが、自らの作品という時代の証憑を通じて自らの人生を語る芸術家たちなのである。その作品群は、「建物内部の人物」のいる場面に対して特別な注意を示し、自ら経験した「戦闘場面」や「闘い」などの絵画主題と並んで、「歴史的ジャンル画」の表現を読み直したのである。

解説 画家の作品をトスカナの美しい風景と重ね、美しい旋律に乗せて見せる冒頭は印象的であるが、どうせなら画家の描いた風景を少なくとも場所としてはそのまま見せてほしいと思わせる。次いで、単なるナレーションで解説を加えるのではなく、フィレンツェのカフェ・ミケランジェロに集うマッキアイオーリの画家たちの様子を俳優を用いて再現するの、他のドキュメンタリーにはない興味深い試みであるといえる。

DVD No 89

タイトル Carlo Carrà: una vita per l'arte カルロ・カルラー：芸術に捧げた一生

ジャンル 美術史

制作年 1993年

作者=発案者 監督 ジゼッラ・バガーノ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリヴァ

上映時間 25分

入力日 2015/02/22

内容 本編は、「芸術的・詩的風景」について語る偉大な画家の息子マッシモの伝える証言に基づきカルロ・カルラー（1881 - 1966）の生涯を明らかにする。

未来派での経験、形而上学的経験、「ジョットの空間性」への強い関心、そして自らの芸術言語を編み出すために他の傾向に属したくないと決定するまでに至る人生を追う。カルラーは次のように書いている。「私の夢全部を実現するまで生きるか、そしてこれからのできごとが私の熟望するものを正しいと認めるか、それは分からない」

解説 切り口として大変興味深く、鑑賞に値する。

DVD No 90

タイトル Savinio (Io, Alberto Savinio) サヴィーニオ、私、アルベルト・サヴィーニオ

ジャンル 美術史

制作年 1993年

作者=発案者 監督 ステーファノ・ボミーリア

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリーヴァ

上映時間 28分

入力日 2015/02/22

内容 本編は、ジョルジョ・デ・キリコの弟アルベルト・サヴィーニオ（本名アンドレア・デ・キリコ1891・1952）という神経衰弱の魂を持ったイタリア人画家が辿った道程を描く。彼の子供のような魂はひと所に留まることができず、絵画、音楽、文学、演劇、批評の間を揺れ動いた。彼はアテネで生まれ、ギリシア、次いでミュンヘンで教育を受けた。1910年にパリに移り、そこでアヴァンギャルドの強い影響を受ける。1916年にフェルラーラに定住し、形而上学的絵画と触れ合う。その一派の一番の理論家として『造形的価値』を著す。また、1948年スカラ座で舞台装置や衣裳を担当し、ストラヴィンスキーの《火の鳥》やオッフエンバックの《ホフマン物語》を演出するなど、様々な才能を見せた。1952年5月5日サヴィーニオはローマで没した。

解説 兄のジョルジョ・デ・キリコに比べて圧倒的に知名度の低いサヴィーニオはしかし幾つかの分野で活躍した豊かな才能を持った芸術家である。本編は、その作家に焦点を当てた非常に珍しいドキュメンタリーであり、画像の輪郭が少々甘いにしても鑑賞に値する。

DVD No 91

タイトル Morlotti: Un lombardo tra i maggiori di tutti i tempi.
"Morlotti, pittore e poeta" モルロッティ：あらゆる時代の最高のロンバルディア人、画家・詩人モルロッティ

ジャンル 美術史

制作年 1993年

作者=発案者 監督：アントニオ・モンダ

編者=監督 監修 ジョルジョ・マスケルバ アンドレア・エミリアーニ
アキッレ・ボニート・オリーヴァ

上映時間 27分

入力日 2015/02/22

内容 エンニオ・モルロッティ（Ennio Morlotti 1910・）の生涯は20世紀をほとんど覆う。明らかにモランディの影響を受けた初期から、セザンヌ、ピカソの発見までの時期を、他のイタリア人作家との関わり、それに次ぐミラノやパリでの文化的生活に対する失望などを追って本編は描く。そこには、政治に関わった短いが激烈な瞬間、絵画における彼の模索にとって常に重要な宗教上の信仰と相容れない関係も含まれる。

解説 大戦間に青年期を過ごしたこの作家の生涯を、当時の映像をふんだんに用いながら解説する。文化的な興味も尽きないドキュメンタリーである。

宇多津古街における景観形成の向上に関する研究

研究年度・期間：平成 26 年度

研究ディレクター：杉本 真一
(建築学科准教授)

会計責任者：吉原 卓男
(建築学科教授)

学外共同研究者：川村 眞次
(デザイン学科各員教授)

北 丈夫
(建築学科非常勤講師)

研究補助者：浅野 秀幸
(宇多津町地域整備課)

蛭子 智成
(宇多津町政策調整室)

岡田 茂久
(宇多津町地域整備課)

玉井 幸絵
(宇多津町まちづくり課)

藤岡 貴
(宇多津町民)

小鷹 真治

猪野 洋介

久米 智陽

山城 瑞貴

米井 翔子

佐藤 美優

(大阪芸術大学建築学科学生)

【研究の目的】

四国・香川県宇多津町の歴史的な景観を残す古街地区では、建物の老朽化や住まい手を失った空き家の廃屋化、また既に建物が撤去された跡地が空地と化し、歴史的な景観の消滅が深刻である。本研究は、大きく変化していく過程の古街の実態を把握し、景観形成の向上に資することを旨とした調査研究である。

【宇多津町概要】

資料によると宇多津町は香川県のやや西、瀬戸内に接する香川県でも最も小さい市町村である。集落は讃岐平野独特の景観を作る平坦な地に突き出た円錐状の山塊群の間を縫い、青ノ山(224m)の裾を北流し、行く手を精通寺山に遮られ蛇行し瀬戸内の海に注ぐ大東川の扇状地に位置する。集落の起源は古代。青ノ山の山裾、大東川の河口に設けられた旧郡の鵜足(うた)郡の津に始まり鵜足津とも表記され、古代より港として栄え鎌倉時代には多くの寺院が建立された。



(図1)



(図2)(国土地理院地図をベースに)

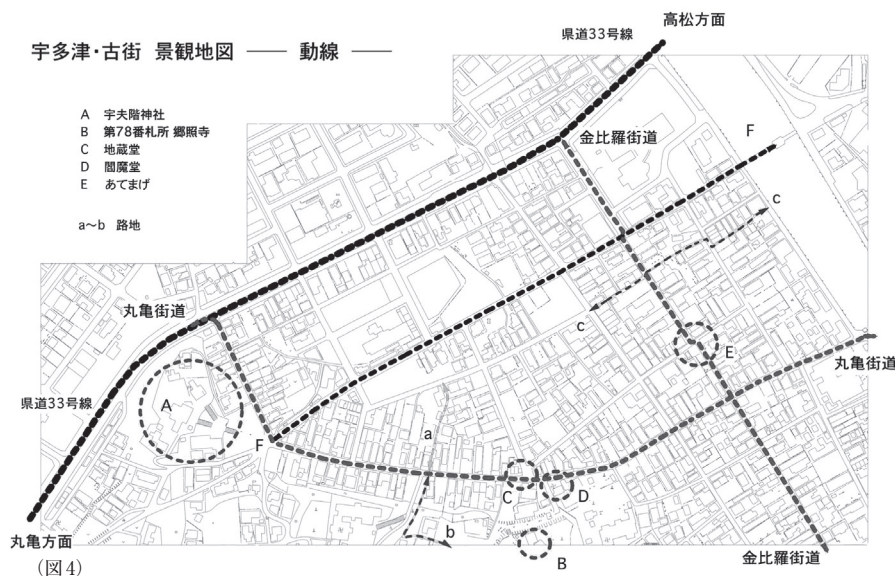


(図3)(Google Earthより)

江戸時代の中期から昭47年の塩田廃止まで、温暖な気候を利用した全国屈指の塩の町として栄えた。後に、この広大な塩田跡地を含む海浜地区は再開発され、観光・商業施設、中・高層の集合住宅や企業団地などの建設等で大きな発展を見せ、人口密度・人口増加率共に香川一となった。

研究対象の地は、かつての塩田地帯と旧集落(古街)を分ける県道33号線より以南の地区にある。再開発地区の直線による人工的な区画と異なり、青ノ山北側の山裾に沿うように自然発生的で有機的な“かたち”の特徴と、中世以来から続く寺社の存在はここが歴史地区であることを示す。

古街の歴史的景観は、古来より大東川旧河口左岸に形成された集落の街区の家並みと、街区中央より南行する旧金比羅街道が集落の南で東西に交叉する旧丸亀街道沿いの街並みで形成されている。街道の交差部よりおよそ西に670～80mの位置、青ノ山の山麓北の小高い瘤のような丘に宇夫階(うぶしな)神社(図4 A)が位置する。神社階段下の広場には、広場に接し神社を奉る丘の北麓にそって西側から回り込み、広場東側の六叉路を経て青ノ山の山裾を東行する旧丸亀街道がある。



街の一大会事の秋祭りでは、町内各地区で競って華やかに・豪華に飾られ仕立てられた山車・太鼓台が、神社前広場に奉納のため賑やかに集結する。広場の六叉路からやや北東に共に伸びる街路(図4 F-F)では祭りの日、露天商の店舗が仮設され祭りの賑わいに色を添える。祭りのクライマックスは太鼓台の御渡(写真1)である。御渡の道筋は、広場より東に伸びる山側の街路・旧丸亀街道でこの祭り最大の“はれ”の空間となる。



(写真1) 神社前に集結した太鼓台

また、この街道は四国霊場第78番・郷照寺(図4 B、写真2)を経て東行79番・天皇寺に至る遍路道でもある。古街には古くからの社寺やお堂、祠が随所に残り、特にこの遍路道では、棟を連ねる平入りの町家が千本格子・台格子の伝統的な表構えで歴史的空間の雰囲気醸している(写真3)。



(写真2) 郷照寺



(写真3) 棟を連ねる平入りの町家

【研究の概要】

宇多津町において、歴史的景観の保存のため町教育委員会が行った調査「宇多津町歴史的景観活用保存計画策定事業報告書」は宇多津の歴史的景観を調査研究し、その保存やそれらを活かした町づくりの方向を示している。町では景観を活かし育てるために、デザインガイドを定め、歴史的建築物の保存修復、および町家を改修しての宿泊施設へのリノベーション、更に旧丸亀街道、旧金毘羅街道などの舗装をコンクリート・アスファルトとは異なる地道風に改修(写真5)を行っている。しかし、海浜周辺の再開発地区と異なり旧集落の人口の減少と居住人口の高齢化は進み、伝統的な佇まいの多くの建物は老朽化が進み、一部の保全・改修工事の一方で、伝統的な佇まいとはおよそ異なる姿の建て替えもおこなわれている。私たちが古街での踏査を重ねているきわから空き家の廃屋化が進行し、解体・空地となり古街が空洞化していく様は無残である。

この状況は全国の地方都市において同様の症状だ。処方箋もほとんど同様の対応がみられる。都市計画・再開発地区で行われるゾーニング手法によって一気に作りあげられた新しい土地と道路・建物、かつての中心地区を構成していた地区の人気の衰退により労働若年齢層の流失に伴う、人口減少と居住者の高年齢化・建物の老朽化である。

そして、如何に街を活性化し若者を呼び込むのかアイデアも展望もまだまだ稀薄なまま、都会からの若者の移入を期待し、若い力による活性化を考える。何れの手法もお上や他に期待する、他力本願志向のステレオタイプ化したものだ。

歴史的空間が心地良いのは、人々が生活を営むなかで時間の経過とともに徐々に形成し蓄積された文化的人間活動の場であるからである。進化論的空間の推移があるからである。

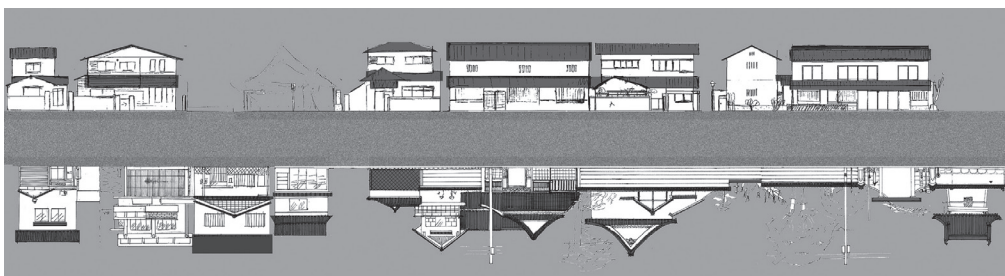
本研究では、次の二点についてワークショップを通して創り出したいと考えた。まずは宇多津古街の景観を活かし、育て、向上させるためには、行政レベル、あるいは上から目線の施策だけではなく、住民の一人一人が景観の維持・向上の意識をもつことが大切であることの自覚を促すこと。次に、かつての伝統的・歴史的町並みの日々の生活の中にあつた歳時の素晴らしい風景を思

い出すことにより、歴史的空間の蓄積された価値を感じる機会を創り出すことであった。

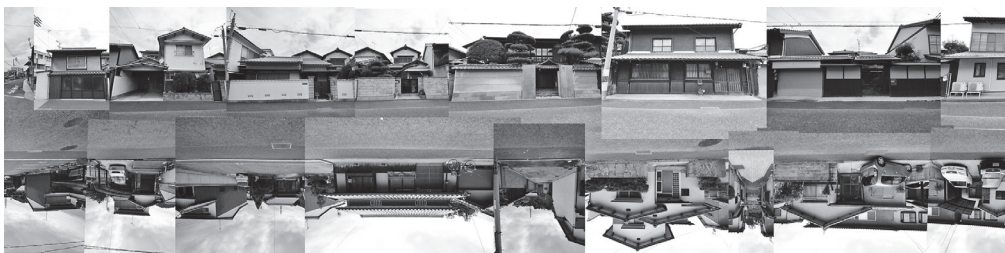
また、古街の様々な歴史的、非歴史的資源を問わず住民が今ある資源を観察・自覚することによって徐々に心地よい空間になる可能性の指摘も考えた。

【調査】

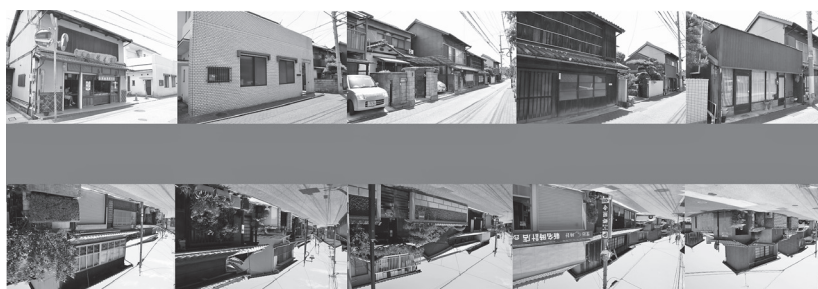
景観調査：古街の景観を構成する要素の現況の姿を視覚的な様相から捉え概観・観察し景観要素を記録にとどめる。調査内容としては、1. 各戸のスケッチ (図5)、2. 各戸の (立面) 写真撮影 (図6)、3. 通行人からの目線での写真撮影 (図7)、4. 端から端まで歩いての動画撮影などを行った。



(図5) 各戸のスケッチの一部



(図6) 各戸の立面写真をつなぎ合わせたものの一部



(図7) 通行人からの目線での写真撮影の一部

建物利用現況調査：古街における建築物の現況を観察、用途別利用の地図化 (図8) をおこなう景観要素等を写真撮影、記録にとどめ報告する。

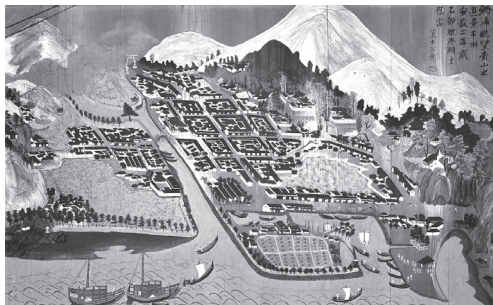
景観資源：道路や街路及び路地、敷地形状、伝統的建築物による家並み、歴史的建築物以外

の建築物、建造物・工作物・自然の構成物等が作り出す空間など保存し留めたい景観要素を視覚的に把握し、地図・スケッチ・写真等での記録を報告する。



(図8) 建物利用現況調査をまとめた図 (国土地理院地図をベースに)

【現況報告・分析】



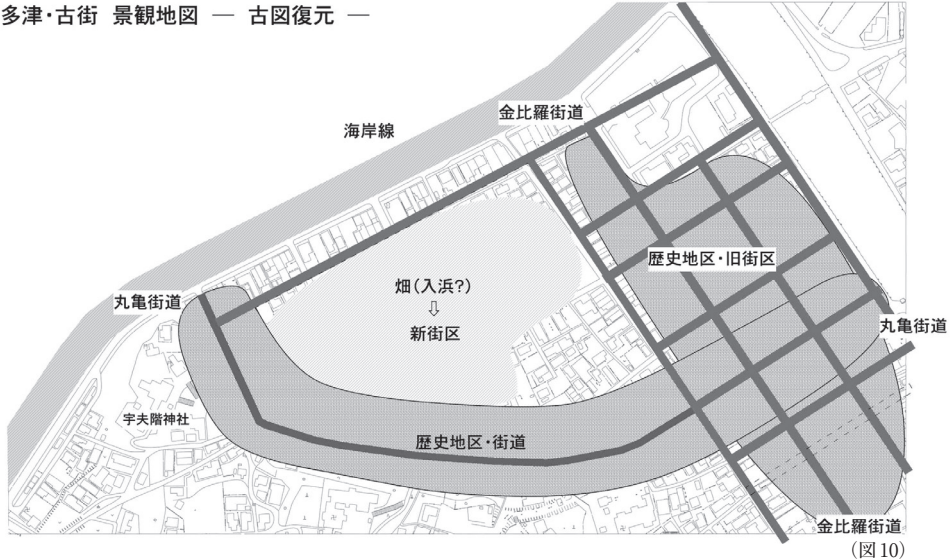
(図9) 宇夫階神社内の金毘羅社奉納の絵馬・網浦眺望青山之真景

ヴィジュアルな宇多津の集落を示す歴史的な資料として、唯一宇夫階神社内の金毘羅社奉納の絵馬・網浦眺望青山之真景(1885年・安政2年)(図9)がある。宇夫階神社と丸亀街道、大東川を基準に考えると、海岸線はほぼ県道33号線あたりと考えられる。これと現在の区画図と比定すると南北に流れる大東川左岸と並行する金比羅街道を中心とする東西の区画が一致する。つまり、大東川左

岸の区画と金比羅街道を中心とする東西の矩形の区画と二つの旧街道沿いの家並みが江戸期の街区域と考えられる。また、絵馬の図からすると旧街区から西部、丸亀街道南部に挟まれた古街部分は、入浜かあるいは畑地のようにみられる。このエリアは旧街区より後の時代、恐らく明治以降に町家化した部分と考えられる。旧街道沿いと旧街区の歴史地区と当該部分の町並みを観察すればその特色は明確に異なる。

歴史地区の町割り(図10)について見てみると、街道筋は街道に面して短冊形の敷地割りで、通称「うなぎの寝床」と呼ばれる間口に比して奥行きの深い細長い敷地(建物)である。建物の表構えは軒を連ね、「みせ」とよばれる部屋と奥に通じる廊下のような土間の入り口が格子で作られた建具で通りに接する。裏側は、かつては畑や山が迫る未利用地であったのが、市街化が進むにしたがって居住部分へと変化したと考えられる。歴史地区の矩形の旧街区は恐らく当初より四面丁の形式で南北を主軸(海を眺める)とする通りに面していたと考えられる。家屋構成は街道筋に比して若干間口が広いが基本的には同じと考えられる。

宇多津・古街 景観地図 — 古図復元 —



(図10)

歴史地区と、新しく加わった地区の特色は明確に分かれる。それは歴史地区の「街並み」の文言が示す意味・内容は、街中で並みであること、つまり普通であること、あるいは同じ程度であることを示す。それは、極めて同じことに徹すること、同じ並びの住戸は同じになることに努力を積み重ねた結果なのである。ところが、近代に新しく加わった地区においては、体制の崩壊により、並であることに努力する意味の喪失感と、拒否、あるいは並ではダメとの価値感の出現である。属する集落との一体感から離れようとの意識の芽生え、多様性の出現である。並であることに重ねてきた伝統の蓄積、或いは繰り返せばある程度普通でいられる安心の空間はもはやそこには無い。つまり、歴史的空間と近代に新たに加わった空間との違いは、一体感を保つ志向性を保持した文言である街並みと、その志向性から離脱し「多様性」への志向性をもつまちなみではもはや街並みとは呼べる意味・内容をなさない。以降、ここではそれを「まちなみ」として仮に区別する文言を使用する。

以上のことから歴史地区の景観を構成する要素は歴史的な蓄積に基づくものである。つまり、それがいかに伝統的な様式に沿ったものが評価のひとつの指標となる。一方で、新たに加わった地区は多様性の中で個々がその評価に耐える存在感を示さねばならない。

〈幹線道路〉

現況は、宇多津を新と旧に分ける県道 33 号線 (図 4 参照)、これは他地区及び地区内を結ぶ宇多津の幹線道路である。主として車利用を前提とした幅員 20m 前後 (歩道を含む) である。町役場をはじめガソリンスタンド、ドライブイン、銀行、スーパー等の町内及び広域の住民サービスといった用途の土地及び建築物がほとんどである。一方で、沿道にはかつての塩田最盛期の頃の旧集落の佇まいを残す住戸建築や祠・水門(?)の残址らしき物が沿道付近に点在する。幹線道路の性格上通過交通が主となるのはやむを得ないが、古街への旧丸亀街道、旧金比羅街道を始め集落内部への取り付け道を含めて古街らしさを醸す何かは今少し有ってもと考えさせられる現状である。

〈大東川(だいそくがわ)〉

讃岐平野のため池からの流れを集め北流、飯野山(讃岐富士)青ノ山の東麓をかすめ宇多津町で瀬戸内海に注ぐ。川の水際は石積みで養生した護岸(一部工事中)が施設され、架かる橋は、県道33号線に大東川橋、旧丸亀街道に架かる水門兼用の新町橋、二つの橋の中ほどには歩行者専用の仲の橋と三箇所、それぞれに特色があり個性的な風景をつくる。それぞれの対岸から眺める風景も概ね良好であるが、高松方面から大東川橋を渡り最初に目にする町役場とその駐車場は植栽等での工夫が必要と思われる。

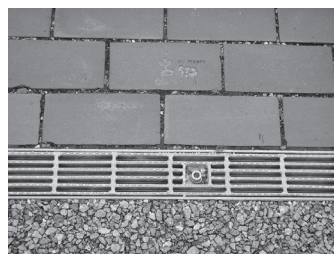


(写真4) 大東川の南東を見る。右奥に水門。

〈歴史地区〉

現在の地形図と街並み、江戸期の絵馬(図9)に描かれた宇多津の集落を勘案して推測される旧丸亀街道・旧金比羅街道筋と古街東側のエリアを歴史地区(図10)として把握、調査を進めた。この地区の建築物は基本的には伝統的な表構えの街並みで構成されている。

旧街道：旧丸亀街道・旧金比羅街道であるがいずれも中世からの巡礼街道でもあり、かつての讃岐平野の集落とを結ぶ幹線道路でもあった。ほとんど6m前後の幅員である。最近中央部を地道風の舗装、両側に瓦風のタイルで舗装された歩道(写真5)になっている。中央部の車道と両端の歩道との境界は、高低差なしの細めのグレーチングで覆った側溝により歴史地区に相応しく配慮された高品質の街路となっている。



(写真5) 改修された道のディテール
上から歩道、側溝、車道

旧街区：絵馬からの推測によると、矩形で南北の通りを主軸とした矩形の4面丁で、南北に長めのおよそ60×40m程度の区画で、南北線は6～8m。東西が4～5m程度。舗装の様子は旧街道と同様である。

表通り：歴史地区の伝統的家屋や商店では、建物のファサード部分が直接道路に接するが、最近建設された住居建築では庭あるいは駐車場としての利用が多い(写真7)。

伝統的な構法に基づく建築物で落ち着いた佇まいを持ち歴史的空間を構成する代表的な通りは、旧街道筋(丸亀街道・金比羅街道)であるが、古街東側の歴史地区にも多く分布している。伝統的家屋の表構えは基本的には切妻造の平入り(写真3)が多い。旧街道沿いの町並みでは、切妻造の平入りで接する街道の連続



(写真6) 入母屋造りで平入りの伝統家屋

性を保ちながら、他との交差点においては寄棟造あるいは入母屋造(写真6)で交差街路に対する表構えの廻り込みによって、それぞれの街道に対する配慮と共に町並みの連続性を担保し、街道筋と集落の街並みの一体感を示す長い歴史を醸す部分でもある。

伝統的な建築の表構えの主たる造作(台格子・千本格子)やその素材が街並み景観を構成する重要な要素であるとの認識は住民の間では共有されているようである。

注目されるのは最近建設された旧街道沿いの住居建築である。古街の西側、旧街道沿いに新築の住居は目立つが、街道に面して駐車場を確保している空間計画からか、全体的な印象はそれらによって旧街道の景観が暴力的に破壊されている印象はない。



(写真7) 街道に面して駐車場を配した手前の新しい住宅と奥の古い住宅

隣地との境界：コンクリートブロックは、敷地の境界明示及び目隠しとしての機能が主で、モルタル等で化粧を施すが、素地のままの塀も多く見られ、『裏』意識が濃厚で路地と同様に景観要素としての認識は希薄。災害時のことを考えると安易にコンクリートブロックが多用されることは問題である。今回は古街全体にわたるブロック塀調査(塀の長さ、高さ、控え壁の有無など)(図11)も併せて行った。



(図11) 建物利用現況にブロック塀調査を重ねてまとめた図

〈新街区〉

明治以降、集落人口の拡大期に、旧街区のある程度の計画性が見られる直線、矩形、寸法などの様子から丸亀街道筋の集落北側の家並みの背後、畑地(入浜?)部分が新たに開発され街区に加わったものと推測される(図10中央)。街路は東部の街区、あるいは丸亀街道からの畑(入浜?)地区のアプローチ道路により現在の区画が次第に確定したようだ。

新街区の中心となる街路は宇夫階神社から東行、仲ノ橋を経て大東川右岸に達する幸町の街路(写真8、図11の左下から右上へ向う対角線上の道路)である。街路には、網の浦万葉公園・中央保育園・福祉センター・産直市うたづ・倉の館三角邸など宇多津・古街地区の住民の生活の中心をなす通りでもある。幅員はおよそ7~8mに達する。古街一番の広い幅員である。舗装は旧街道と同様の舗装も混じるがほとんどはアスファルト舗装である。街区の特色として住戸の建築はほとんど伝統的な表構えをもたない。

歴史地区での伝統的な表構えの住戸は、「並み」という長い熟成の期間を経ての完成されたスタイルでもある。現在はまさに多様性の時代で「並み」に対応した「まちなみ」の言葉は見つけることができないのだろうか。

《特記項目》

蛸壺の窯元：蛸壺によるタコの捕獲漁法はその発祥の地と知られる明石を始め瀬戸内に広くひろがった漁法である。その素焼きの蛸壺の主たる生産地が宇多津で、最盛期にはその需要のほとんどを賄っていた。しかし、現在その蛸壺の素材もプラスチック製となり宇多津での蛸壺生産は廃れ、後継者不足も合わせて窯元も休業中であった。設備もそのままである(写真9)。

路地：表通りに対して路地は裏道としてサブロード(補助的)的な役割を果たす。補助的といっても実際は生活の幅をひろげ豊かさを保つ重要な役割を担うべき生活空間でもある。古街の幾つかの路地を観察することによって住民の生活の営みのなかで、住民の手による、路地の進化論的变化を確認することができる(写真10)。

《ワークショップ》

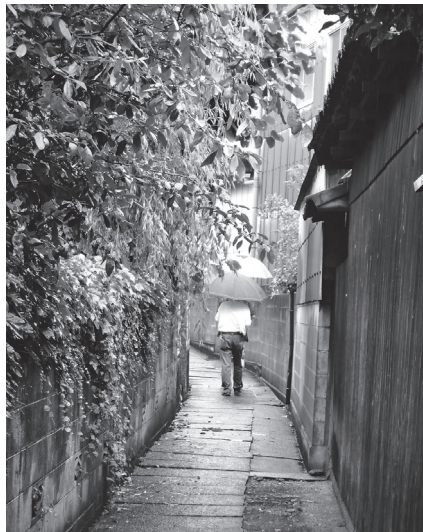
住民の歴史的景観の維持・向上への「内発的意識の啓発」をより高めるための具体的な手法としてワークショップをおこなった。その後そのプロセスや意識の啓発に果たした役割についてアンケート調査を行った。ワークショップに参加することによりコミュニティへの関わり、景観向上への参加意識の高まり、当事者である住民が、自ら住む空間が歴史的にも価値が



(写真8) 幸町の街路



(写真9) 休業中の蛸壺の窯元



(写真10) 街を豊にする路地

あり、自らの参加によってそれらが維持されていくことを知る。

ワークショップの具体的な内容は、当初、景観の向上への試みの一つとして既存のブロック塀等に修景の施工を考えていた。ところが候補にあがるブロック塀には施工に耐えられる強度が不足している、あるいは施工後の瑕疵に関わる責任等様々な問題が浮上したことから、塀等の修景に関してはCGによる制作を行い提案することとした。そして、対象地域の広域に関わり、住民の誰でも参加でき、修景の意味を実感できるワークショップとして、別途考えていた竹材を利用した工作物の制作を行った。竹筒による花入(写真14)とプラスチックのプランターを覆う竹材のカバー(写真15)、そして木製ベンチ(写真16)である。作品は町の展示場(こめっせ宇多津)で公開の後、宇夫階(うぶしな)神社から旧丸亀街道沿いに大東川までの町家に配布・施設した。



(写真11) ワークショップの会場



(写真12) 作品の搬出前



(写真13) 作品の設置



(写真14) 花入れの竹筒



(写真15)
竹で作ったプランターカバー



(写真16) ベンチ

〈アンケート結果〉

古街の住人を対象にワークショップ終了後にはアンケート(12項目の質問)を行った。アンケートからは

- 住民の70%しかワークショップのことを知らなかったことは、広報のための時間が十分に取れなかったことが原因と考えられる。しかし、対象地域の半数の世帯から参加者を得たことは評価できると思われる。
- ワークショップに対する6項目に対する住民の評価では、大変満足と満足を合わせると79%であり、概ね好評価を得たと判断できる。
- 引き続きワークショップの開催が必要であることが感じられる。

《終わりに》

歴史的景観については様々な研究機関や行政機関が各種の施策を提案し、成果をそれぞれ挙げている。ただその対象となるのは特別なもの・貴重な存在のものである。今回の研究で私たちが問題としたのは特別なものと普通のものとの距離である。そしてその距離が住民を遠ざけ保存や維持管理を行政に委ね、住民の意識を遠ざけている原因であると考ええる。貴重な街並みもそれを作り出したのは普通の住民であることを忘れてはいけない。

先に挙げたくかつて日々の生活の中にあつた歳時の素晴らしい風景を思い出すことにより歴史的空間の価値を感じる>をまさに軒内の壁や格子の竹筒に野の花を活けるといった細やかな一歩が、次の一歩に結びついたことをひな祭りへの誘いで知ることになった。私たちの研究の以前から、町の有志の呼びかけでその期間家に伝わるお雛様を開放し展示するイベントが宇多津で根付きつつあつた。ワークショップ終了後の雛祭の時には、竹筒による花入が新たに多くの家々に設置され、ワークショップの成果を確認した。

花入以外で、私たちは短期間ではあるが様々に踏査と調査をおこない宇多津の特色ある風景とその可能性を知った。このことは貴重である。いつか近いうちに宇多津の人々にこのことを報告し、話し合う機会を持ちたいと考えている。

私達は今回の研究(調査とワークショップ)で宇多津の様々な人と知り合い、話をお聞きする機会を得た。私達が行つたことは、竹筒による花入といた細やかな仕掛けであるが、それが様々に変化していく可能性を感じることができたことは貴重な体験であつた。

阿波の襖からくり研究—犬飼農村舞台・西祖谷山村舞台—

研究年度・期間：平成 26 年度

研究ディレクター：絹谷 幸二
(美術学科教授)

共同研究者：井関 和代 (工芸学科教授)	池田 光恵 (芸術計画学科教授)	伊藤 正博 (教養課程准教授)	岩崎富士男 (放送学科学科長)	江尻 幹子 (デザイン学科教授)
奥田 基之 (写真学科専任講師)	織作 峰子 (写真学科学科長)	加治 大輔 (建築学科准教授)	芹澤 尚子 (音楽学科教授)	高岡 一弥 (写真学科客員教授)
高橋 善丸 (デザイン学科学科長)	田之頭一知 (教養課程准教授)	坪田 政彦 (美術学科教授)	豊原 正智 (芸術計画学科教授)	中川 滋弘 (映像学科教授)
永坂 嘉光 (写真学科教授)	浜畑 賢吉 (舞台芸術学科学科長)	福原 成雄 (建築学科教授)	山本 健翔 (舞台芸術学科准教授)	(職種は平成 26 年度現在)

阿波三村の「襖からくり」は、徳島の奥深き山村にあって、古きより村人によって受け継がれてきた伝統芸能で、五穀豊穡を願うとともに村々の人々にとっての娯楽として、毎年、年に一度行われている。この「襖からくり」は、人形芝居の舞台等の奥に設けられた高座に組み込んだ襖を巧みに操作して、舞台背景を一瞬に転換させ、演出する習俗である。類似技法は日本各地の農村舞台でもみられるが、多くが歌舞伎使用のものであるのに対して、阿波農村舞台では、阿波人形浄瑠璃のためのものであり、「襖からくり」が独立した演目として行われ、独自の素朴で華麗な世界を創りだしている。

徳島人ですらあまり知られていないこの「襖からくり」を調査・研究し、大阪芸術大学の参加・協力によるより楽しい芸能空間を演出し提供すること、新作「襖からくり」の創作によるその新たな可能性を試みること、大学と村々の人々とのコラボレーションにより、文化交流と地域との共感・融合を計ること、さらには、芸大の学生及び若い人々に、日本の豊かな自然の中での素朴で鮮やかな意匠のエンターテイメントに参加し、観る機会を提供することが本研究の目的であった。

本研究は、今日、日本人にとって「ふすま」とは何か、暮らしの中の「アート」とは、「芸能」とは何か、文化装置としての「ふすま」とは何か、急速にデジタル化が進む現代社会の中で改めて日本人にとっての創作のアイデンティティについての手がかりを得ることができ、また、大阪芸術大学という総合芸術大学にとって、新しい視点で様々なものを見つけ出し、検証し、再編集し、表現し、具体化することを通して世界に発信する装置を用意するスキルを生み出すことが期待される。「襖からくり」を通して、阿波の村々から、大阪芸術大学から社会に向けて、日本に向けて研究の成果を発信する機会が得られるということに、本研究の学術的また社会的意義が存在する。

本研究は、すでに前年度から数回にわたり現地に赴き予備調査を行ってきた。それに基づき、徳島市八多町の犬飼農村舞台、三好市西祖谷の山村舞台の2カ所で新作「襖からくり」を実施することにした。この調査・研究・実施には13学科の教員、大学院生、学部生が関わっており、調査、襖制作、公演実施がそれぞれ分担して行われた。本年度の実際の調査は5月31日、6月1日、9月13日、10月4日の4回に亘って行われ、建築学科による舞台の実測、襖制作に関わるデザイン・美術・工芸・写真の各学科による襖操作の確認、現地スタッフの指導受講、舞台芸術学科によるパフォーマンス、妖怪マスク等のための調査がなされた。それらの調査資料に基づいて、襖操作の練習のために、実際に8メートルにおよぶ棧とレールが1基のみだが、木工室の協力の下、藝術研究所のスタッフによって制作され、10月23日から3日間、芸術計画学科スタジオにおいて、本番通りのシナリオに基づく練習が行われた。これは、一部の限られた装置によるシミュレーションであったが、問題点が明らかになり、実際の操作感覚も得られて本番に向けて非常に有効であった。

今回の「襖からくり」全体の構成は、音楽学科、放送学科による作詞・作曲の歌、音楽、音響効果を加え、デザイン・美術・工芸・写真の各学科の制作による三つのパートからなる襖からくりをメインに、シナリオに基づく舞台芸術学科による講談調の語りとパフォーマンス、さらに一部、芸大の大道芸同好会によるジャグリングをも含めた大掛かりな総合芸術作品となった。

まず、犬飼農村舞台での公演が11月1日午後4時30分から6時まで行われた。襖設営とリハーサルを含め、現地のベテランの襖からくり関係者に大いに手伝ってもらい、本番では雨に見舞われながらも、50人ほどの観客の前で成功裏に公演を終えることができた。この最初の経験が2日目の西祖谷での公演に生かされることになった。

西祖谷での公演は、11月2日夜、犬飼とは少し襖の構成を変えて行われた。それは、レーンおよび1レーンの襖の数が犬飼とは異なるためである。犬飼とは違って西祖谷の徳善阿弥陀堂での公演は、薪による篝火によって照らされた夜7時から8時30分までの公演で、幽玄漂う雰囲気の中、雨にも見舞われず、犬飼を上回る観客を迎えて行われることになった。ここでも現地のスタッフの方々に大変お世話になった。リハーサルで襖の滑りがうまくいかず、その場で大工道具を持ち出して修正してもらうなど、臨機応変に、また機敏に対応してもらい、われわれに対する協力の力の入れように感服した。一部トラブルがあったが、全体として成功した公演であった。

犬飼農村舞台、西祖谷山村舞台での大阪芸術大学による新作「襖からくり」は、当地以外のしかも芸術大学の本格的な創作による総合芸術として、今回が初めてのことであり、メディア、特に朝日新聞、徳島新聞、徳島放送、現地のケーブルテレビ等で記事としてまたオンエアされ、関心の高さが窺えた。このことに関しては12月の教授会の場をかりて、一部報告がなされた。

今回の藝術研究所の研究補助費による共同研究・制作「阿波の襖からくり研究」は、「文化交流と地域との共感・融合を計ること、さらには、芸大の学生及び若い人々に、日本の豊かな自然の中での素朴で鮮やかな意匠のエンターテイメントに参加し、観る機会の場を提供するこ

と」という研究目的を掲げて行われたが、学生たちへのインタビューでも窺えるように、貴重な経験と試みであり、一定の所期の目的を達成できたのではないだろうか。特に、三好市の観光協会からは、非常に好評であったということで、次年度も協力をお願いしたいという意向が伝えられている。

この共同研究の報告書は、現在編集作業が進んでおり、夏前には発行される予定である。また次年度後期に教員研究発表会にて研究発表並びにシンポジウムを予定している。

(文責 豊原正智)



リハーサル

犬飼

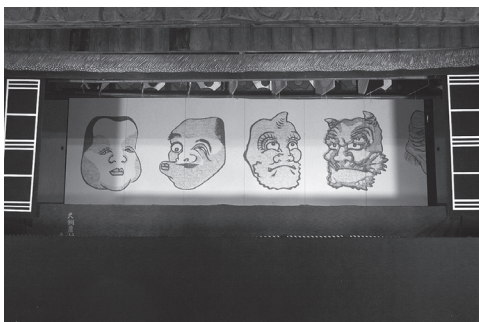
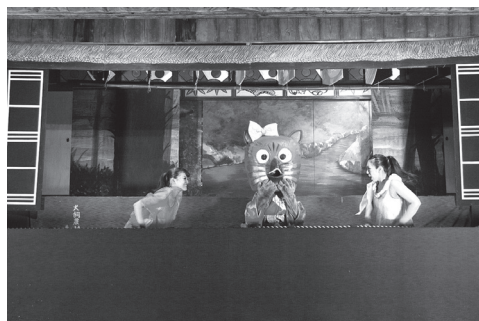
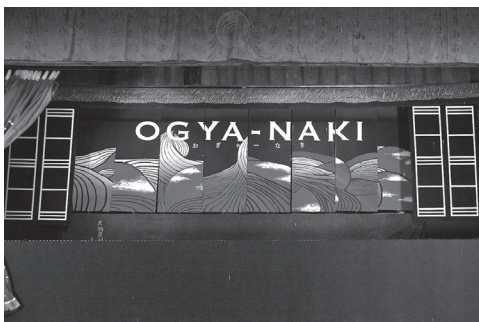


徳善

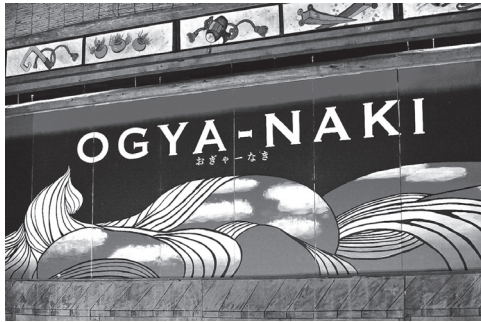


本番

犬飼



本 番
徳善



「阿波の襖からくり担当一覧」

監 修		
絹谷 幸二	美術	教授

企画製作		
高岡 一彌	写真	客員教授

総監督		
豊原 正智	芸術計画	教授

調査		
福原 成雄	環境デザイン	教授
加治 大輔	建築	准教授
堀川 孟史	環境デザイン	副手
千葉 ほのか	舞台芸術	2 回生

襖制作		
織作 峰子	写真	教授
永坂 嘉光	写真	教授
坪田 政彦	美術	教授
江尻 幹子	デザイン	教授
高橋 善丸	デザイン	教授
井関 和代	工芸学科	教授
佐々木 淳一	工芸学科	非常勤講師
小原 直	写真	客員准教授
藤田 裕貴	デザイン	副手
滝沢 仁悟	芸術計画	副手
藤中 星歩	藝術研究所	アルバイト
金田 祥太郎	藝術研究所	アルバイト
今野 きさら	藝術研究所	アルバイト

川西 史華	写真	院生
紺田 達也	写真	院生
藪口 雄也	写真	院生
石黒 悠	写真	4 回生
只野 寛亨	写真	4 回生
舘 かほる	写真	4 回生
辻 七瀬	写真	4 回生
杉本 光輝	写真	4 回生
樋口 貴哲	写真	4 回生
松本 尚大	写真	4 回生
陶器 浩平	写真	4 回生
中村 公美	美術	4 回生
岡本 鈴果	美術	4 回生
中尾 舜	デザイン	4 回生
浜崎 翔	デザイン	4 回生
松田 雄亮	写真	3 回生
金子 恵子	写真	3 回生
小山 慎太郎	写真	3 回生
下久 菜津美	写真	3 回生
山田 智也	写真	3 回生
谷山 胡桃	デザイン	3 回生
秋山 大樹	デザイン	3 回生
許 家豪	デザイン	3 回生
堀 俊樹	デザイン	3 回生
土屋 恵里佳	デザイン	3 回生
湯浅 立靖	デザイン	2 回生
和田 一馬	デザイン	2 回生
河合 百合子	工芸学科	2 回生
木林 由依	工芸学科	2 回生
木村 鶴夕花	工芸学科	2 回生
京極 郁穂	工芸学科	2 回生

小原 瑠夏	工芸学科	2 回生
松下 睦実	工芸学科	2 回生
米田 万結子	工芸学科	2 回生
渡邊 愛	工芸学科	2 回生

襖操作		
池田 光恵	芸術計画	教授
高橋 聡	デザイン	副手
北山 結菜	演奏学科	4 回生
谷山 胡桃	デザイン	3 回生
山口 詩織	デザイン	3 回生
矢倉 晶子	デザイン	3 回生
馬籠 優輔	デザイン	3 回生
太田 美波	デザイン	2 回生
小林 真由美	デザイン	2 回生
増田 由莉香	デザイン	1 回生

衣装制作		
中谷 友机子	工芸学科	非常勤講師

妖怪マスク制作		
末延 國康	初等芸術	非常勤講師

シナリオ		
浜畑 賢吉	舞台芸術	教授
江尻 幹子	デザイン	教授
石川 梓	文芸	院生

舞台		
浜畑 賢吉	舞台芸術	教授
山本 健翔	舞台芸術	准教授

嵯峨根 結実	舞台芸術	副手
永井 宏平	舞台芸術	副手
津田 美子	舞台芸術	卒業生
山下 雅	舞台芸術	卒業生
山崎 永莉	舞台芸術	卒業生
塩崎 彩巴	舞台芸術	卒業生
佐藤 ゆみ	舞台芸術	卒業生（語り）
森田 康平	舞台芸術	4 回生
近藤 一輝	舞台芸術	3 回生
木村 周平	舞台芸術	3 回生
森田 亜衣	舞台芸術	3 回生
中野 史緒江	舞台芸術	3 回生
森 彩香	舞台芸術	3 回生（歌）

作詞・作曲・音響		
岩崎 富士男	放送	教授
芹澤 尚子	音楽	教授
牛山 泰良	音楽	副手
元井 奈美	音楽	4 回生
荒井 卓也	音楽	3 回生
谷口 一平	音楽	3 回生
松尾 朋拓	音楽	2 回生
杉本 ひかる	舞台芸術（音楽）	2 回生
富江 梨穂	舞台芸術（音楽）	2 回生

ジャグリング		
今井 奏夢	舞台芸術	4 回生
隅 ほなみ	デザイン	4 回生
江崎 遥	放送	4 回生

記録映像・写真		
中川 滋弘	映像学科	教授
安井 弘幸	映像学科	副手
宮崎 佑介	映像学科	機材係
神尾 康孝	写真	助手
田中 圭祐	写真	助手
陶器 浩平	写真	4 回生
松田 雄亮	写真	3 回生

報告書		
伊藤 正博	教養課程	准教授
田之頭 一知	教養課程	准教授

総合マネージャー		
松下 陽子	藝術研究所	課長

教授 15 名 准教授 4 名 非常勤講師 3 名 客員教授 1 名 客員准教授 1 名 副手 9 名 事務職 1 名 アルバイト 4 名 卒業生 5 名 院生 4 名 在校生 55 名
総 102 名

M 5 妖精達の踊り（この間に転換）

ふすまⅢが終わる。

ふすまⅢが出来上がったところで、妖精たちは消える。

ひだる神

ひだるいよ。腹が減ったよ。おやここに倒れているのは学生か。

随分痩せているが、まあ我慢してこいつを食おう。

狂言師

ここ祖谷溪に遙か昔から住まい居る妖怪は、もう住む場所ももうなつて、現世に現れたところで人間に悪さをする力を失ってしまった。

さあ祖谷溪の妖怪たちよ、お前たちが大好きな山の峰、木の祠、沼の底深くで静かな眠りにつくがよい。

後は現世に生きる人間たちに任せようではないか。

学生に近づくと、そこへ婆が出てくる。

狂言師去って行ってフィナーレ。

狂言師

これヒダル神よ。あまり卑しゆうするものではない。この握り飯を与うるによつて早う山へ帰るがよい。

M i ひだるこいうた

ひだる神は握り飯を食いながら去っていく。学生眠りから覚めたように伸びをして起き上がる。

歌が終わったらこの曲のアレンジで全員出て来てのダンス。

学生

ああ、お婆さん、北斎先生の漫画、見てくれましたか？

狂言師

おお、見たとも。この祖谷溪の妖怪に似たものもあり、似ておらぬ妖怪もあるのお。

ふすまⅢが始まる。（BGM・例えば阿波踊り）

襖の絵は現代の家族3世代の写真と、北斎漫画の妖怪が現われる。

学生は小屋をひと回りして上手前に出てくる。その間「重い、重い・・・」とぼやいている。ふと気付いて触ってみると、赤子は石に代わっているではないか。驚いて振り落とすと、こなき爺は学生の足にしがみつく。もだえる学生。「抱いてくれ、おんぶしてくれ」という爺。

M3 屁こき爺

そこへ音楽が入る。客席下手から屁こき爺の登場。学生は臭い屁に悶絶してしまう。こなき爺もたまらず逃げて行く。勝ち誇るへこきは、倒れている学生や客席に向けて連発する。

そこへ後をつけて来たのか下手から河童が現れる。

狂言師

河童は人を水底に引きずり込みその尻小玉を抜き取る妖怪じゃよって、へこきの尻を狙って現れたものでござる。

河童

やや、屁こき爺だな。奴の尻子玉はさぞかしてかいだろう。ちよつと臭いが我慢をして食うてやろうか。

河童が尻子玉を狙う度に屁こきは悲鳴をあげ、ついには逃げ去ってしまふ。

河童

やれやれ屁こき爺め逃げおったか。はてここに倒れておるのは、どこやらの学生だな。ようししからばこやつ尻子玉を抜いて今夜の飯としよう。

河童がそつと近づき今度はその尻子玉を狙う。危うしと思ったその時一陣の風の音。天狗が団扇で煽きながら現れる。

BGM (風の音)

河童

これはたまらぬ風じゃ、お皿が乾く！（と逃げて行く）

天狗

どうじゃ河童め、わしの力を思い知ったか。

M4 怪しげな音楽

美しい女（妖精）が現れる。天狗はすぐにデレデレになってしまう。

二人のダンス。やがて女は天狗を小屋奥へと誘って行く。天狗がついて行くと、ふつと女が消える。天狗は奥へ追いかける。女の代わりに出てきたのは狸。

狸

いかにわれの腕前この変身の術、見事天狗の奴を騙してやったぜ。

そこへひだる神「ひだるいよ、何か食いたいよう・・・」と言いながら登場。タヌキを見つめる。

ひだる神

おう狸がおる。あれを捕まえて狸汁にしよう。

狸

わあ、ひだる神だ。こいつは食えるものなら何でも食うてしまふ恐ろしい奴だ。食われてなるものか。

ひだる神

逃げるな狸。助けると思つてわしに食われてくれえ。

狸

いやだ、いやだ、食われるのはごめんだ。

狸はたまらずに逃げていく。ヒダルが追いかけてくると、女の妖精数人が出てきて踊る。ヒダルは巻き込まれる。

ました。若者はそこに向かって威勢よく走り、川のほとりにたどり着くと滝が見えました。激しい滝の音を聞いていると、その音の中に何か別の音がふいに聞こえてきました。よく耳を澄ましてみると、おぎやあ、おぎやあという赤子の鳴き声でした。

若者がその鳴き声を居って行くと、そこには白い布に包まれた赤子がおりました。ところどころ、泥がついておりましたので、男は、丁寧に泥をはらってやりました。

ふと気づくと川のほとりに純白のドレスを着た美しい女がおりました。若者はまだおぎやあ、おぎやあと泣いている赤子を見捨ててその女のもとへと行ってしまいました。

第四場面

まわりは一瞬で、純白の背景になりました。森も草も見えなくなつて、川だけが残っておりました。汚れない青々とした美しい色でした。すでに夜明けになっており、辺りは目が痛いほどに明るくなりました。若者は先ほどまで夜だったはずなのに、なぜ急に朝になっていったのか不思議に思いました。白いドレスの女は微笑んでいるだけで何も言いませんでした。その横顔があまりに美しかったので、若者はその女に触れてみたいと思ひ、近づいて手を伸ばしました。その途端に若者はひゆる、ひゆると落下して行つたのです。

第五場面

若者は一人暗闇の世界におりました。あの純白の女はどこに行つたのでしょうか。「あれは化け狸であり、あの老婆だったのか。ここは冥土であり、俺は今三途の川を渡つてしまつたか」と考えました。

その時不思議なことに今まで忘れていたあの赤子が頭をよぎつたのです。そして、赤子を見捨ててはいけなかつたと思つた次の瞬間、赤子が目の前に出て来たので思わず若者は抱きしめました。

するとそこに、おぼろげに見える細い糸が伸びてきました。若者は赤子を抱いたままゆつくりとその糸を登って行つたのです。

第六場面

どこからか寺の鐘の音が聞こえてきました。若者の眼には生まれ育つた祖谷の里の懐かしい家々が見えました。気が付くと抱いていた赤子の姿がありません。

おぎやあなきは妖怪でしたが、その子を抱き上げた人間に幸せが訪れるという言い伝えがあるのです。

若者はそつと「俺は妖怪のおぎやあなきにたすけられたのか！」と、呟くのでした。

ふすまⅠが終わる。

M2 ジャグリグ

ジャグリグメンバーの登場。その間に転換。

ジャグリグは終わると退場。

上手前でずっと見ていた学生は立ち上がり、下手に歩き始めると赤子の泣き声。立ち止まり探すと小屋の中に見つかる。それを抱えあげあやす。そして人里である下手奥に入つて行く。

「ふすまⅡ」始まる。

狂言師

この赤子は子供がなくすなわちこなきと申す妖怪の爺で、「抱いてくれ、おんぶしてくれ」とせがみ、やがて重たい石になって人間にしがみついて来る厄介な妖怪にござる。

BGM

「ふすまー」(ナレーションあり)

おぎやーなき

第一場面

昔、こゝ祖谷溪に住む若者が山道を歩いていると、どこからか赤子の鳴き声が聞こえて来ました。薄気味悪いとは思いましたが恐る恐るその声をたどって行きました。ところがそこにいたのは赤子ではなく体の小さなただの爺さんでした。

こなきじじい 「そこを通りよる、あんにゃん、ちよつとわしをおぶつてくれんかのう」

若者は爺さんを哀れに思い、おんぶをしてやったのです。しばらく山道を歩むうちに爺さんの体重が徐々に重くなっていると感じ、後ろを向くと爺は笑ったまま石になっっているではありませんか。若者はこの爺さんが村の古老から聞いていた妖怪こなき爺だと気づき、ぎゃあつ、と叫びながら爺さんを放り投げてしまったのです。

逃げているうちにもう一人爺さんが現れて、尋常じゃない速さでおならをしながら迫ってきました。それは屁こき爺だったので。若者はびっくりして腰が抜ける程でした。

屁こき爺は若者に向けておならを放ち、森中がおならの海になって、一瞬で白色から黄色になってしまいました。若者はあまりの臭さで涙目になり、こなき爺もまたあまりの臭さに耐えかね、どこかへ消えてしまいました。

第二場面

やがて空には満月が出て、月明かりの輝きに小さな小屋が照らされているのが見えました。若者は戸をとんとんと叩き、

芸大生 「す、すいません。ここで少し休ませてもらえないでしょうか」

するとぼさぼさ頭で、一本、一本のしわが針のように細く腰を丸くした老婆が出てきました。

老婆 「ええですよ。また、迷うた人が来た」

と、老婆はにやにやとほくそえんでおりました。

男はそれが不気味でたまらなかつたので、後ろを振り返って逃げ帰ろうとしましたが、森の奥は暗闇に包まれており結局小屋に上がらせてもらうことにしました。小屋の中には囲炉裏があり男が来るのがわかっていたかのように、温かい味噌汁や座布団が用意されておりました。男は老婆に、先ほど会ったこなき爺について語りだしました。

老婆 「こなき爺が赤子の格好をしとるつちゅうのは嘘言ですよ」

若者 「そうですか。僕はだまされたんですね」

と、男は苦笑しました。

若者 「どれくらいここに住んでおられるんですか？」

老婆 「かれこれ一千年程じゃ」

若者 「なぜこんなところにおられるんですか？」

「もう人と会うのは好かんよう。もう知つとるかもしらんけど、ここは妖怪が住むと言われていてね。むしろ妖怪の方がいいことだつてある。人間は欲が深うて、妖怪と一緒に住んでいる方がまだええわ」

と、また、不気味な笑みを浮かべておりました。

第三場面

小屋の壁が強風でぎしぎしとうめき始めました。若者はその物音でおびえてしまいました。これは天狗の仕業だったようです。天狗は右から左へと巨大な団扇で吹き飛ばしてしまいました。二人は必死に逃げまどい、無我夢中で走っていた男は老婆を見失ってしまいました。

喉が渇いた若者がさまよい歩いていると、どこからか水の匂いが漂って来

シナリオ

コンセプト・・・基本的に卒業生の狂言師が全体の解説をします。大阪芸大の学生が、祖谷溪周辺に残る「ふすまからくり」と、平家落人伝説、妖怪伝説に興味を持ってこの地を訪れたことから始まります。

M1 ひだるこいうた

ひだるいよ ひだるいよ
恋はくせものあの人と
誓った赤い糸切れて
こころの闇の奥深く
堕ち行く姿あわれなり
定めなき身は世のならい

あいつが好きさあいつが嫌い
次の世までも逢いたいよ
こころうらはらひだるいよ
なみだうらはらひだるいよ
ひだるいよ ひだるいよ
浮名を流した川ならば
いっそ流れに身を任せ
人目しの人だうたかたを
浮かべたままの恋もよう
恋の夢こそいとしけれ

あいつが憎いあいつが恋しい
殺したいほど逢いたいよ
いのちうらはらひだるいよ
ことばうらはらひだるいよ

舞台下手より狂言師登場。舞台前中央にて。

狂言師

これはこの辺りに一千年住まい致す老婆にて候。この地祖谷溪には、昔源氏との戦に敗れ逃れ来たる平家の落人らの、恨みに満ちた霊が籠りおる。また巡礼の途次山道に迷い腹を空かせ、「ひだるい、ひだるい」とうめきながら死んでいった「ひだる神」の霊など、さまざま妖怪どもが静かに休み居る。

しかるに今につた河内の国より大阪芸術大学の学生が、この地のふすまからくりと妖怪を調べんとやうて参ること。躍動する若き命の近づくを察してか、妖怪ども久々に目を覚まし、ザワザワと嬉しそうに蠢き出だしたるによつて、学生らに悪さをせぬようこの婆が妖怪どもを静めんとここに待ち構えたる次第。

客席奥中央より、学生北斎の画集を抱え、腹を空かせて辿り着く。

学生

あ、お婆さん地元の方ですか？ この辺りの妖怪に興味があつて、江戸時代の浮世絵師北斎先生が描かれた妖怪の漫画と見比べてみたくてやうて来たんですが。教えて頂けますか？

狂言師

招致いたしました。祖谷溪の妖怪の事なら何でも知っておるわい。見比べてやろう程に、まずはこの握り飯を喰うが良い。ひだるいのじゃろう、腹がなっておるわ。この辺りでは腹が減ることを「ひだるい」と申すのじゃ。

学生

有難うございます。いただきます。

狂言師退場する。

学生客席に背を向けて握り飯を食べ始める。ふすまからくりが始まる。